

第17回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

情報提供・相談支援部会

2021年11月26日（金） 14:00～16:00

オンライン会議システムを利用

本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 本日の概要
3. 情報提供・相談支援分野の中間評価に向けた整理について
4. 第4期がん対策推進基本計画および次期整備指針策定のための提案に向けたアンケート結果報告ならびにそれに基づく今後の情報提供・相談支援部会の活動について
 - 1) アンケートの結果報告
 - 2) 今後の活動について（ディスカッション）
5. がんと診断されて間もない人への情報資材作成について（報告）

本日の内容

6. 大阪府「がん相談支援センターご利用にあたってのアンケート」調査実施について
7. 地域相談支援フォーラムin山形（オンライン開催）の報告・質疑
8. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について
9. その他
 - 1) オブザーバーからのコメント
 - 2) 連絡事項
10. 閉会のあいさつ

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

(設置)

平成24年11月27日より施行

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的な向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成

本日の内容

1. 開会の挨拶

2. 本日の概要

3. 情報提供・相談支援分野の中間評価に向けた整理について

4. 第4期がん対策推進基本計画および次期整備指針策定のための提案に向けたアンケート結果報告ならびにそれに基づく今後の情報提供・相談支援部会の活動について

1) アンケートの結果報告

2) 今後の活動について（ディスカッション）

5. がんと診断されて間もない人への情報資材作成について（報告）

情報提供・相談支援分野の中間評価に向けた整理について

がん診療連携拠点病院連絡協議会 第17回 情報提供・相談支援部会

厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

主査 溝上 悠介

第3期がん対策推進基本計画（平成30年3月9日閣議決定）（概要）

第1 全体目標

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」

①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ②患者本位のがん医療の実現 ③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

第2 分野別施策

1. がん予防

- (1)がんの1次予防
- (2)がんの早期発見、がん検診
(2次予防)

2. がん医療の充実

- (1)がんゲノム医療
- (2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法
- (3)チーム医療
- (4)がんのリハビリテーション
- (5)支持療法
- (6)希少がん、難治性がん
(それぞれのがんの特性に応じた対策)
- (7)小児がん、AYA(※)世代のがん、高齢者のがん
(※)Adolescent and Young Adult: 思春期と若年成人
- (8)病理診断
- (9)がん登録
- (10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組

3. がんとの共生

- (1)がんと診断された時からの緩和ケア
- (2)相談支援、情報提供
- (3)社会連携に基づくがん対策・がん患者支援
- (4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題
- (5)ライフステージに応じたがん対策

4. これらを支える基盤の整備

- (1)がん研究
- (2)人材育成
- (3)がん教育、普及啓発

第3 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 1. 関係者等の連携協力の更なる強化
- 2. 都道府県による計画の策定
- 3. がん患者を含めた国民の努力
- 4. 患者団体等との協力
- 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
- 6. 目標の達成状況の把握
- 7. 基本計画の見直し

- 国は、計画期間全体にわたり、基本計画の進捗状況を把握し、管理するため、3年を目途に、中間評価を行う。その際、個々の取り組むべき施策が個別目標の達成に向けて、どれだけの効果をもたらしているか、施策全体として効果を発揮しているかという観点から、科学的・総合的な評価を行い、その評価結果を踏まえ、課題を抽出し、必要に応じて施策に反映するものとする。

中間評価指標に用いる調査

第74回がん対策推進協議会
資2-1より抜粋

医療に関する調査

- 拠点病院現況報告
- 厚生労働科学研究
- 厚生労働省による統計調査（医療施設調査等）等

がんに関する調査

- がん登録
- 厚生労働科学研究
- 厚生労働省による統計調査（国民健康・栄養調査等）等

患者・家族に関する調査

- 患者体験調査
- 遺族調査
- 厚生労働科学研究
- 厚生労働省による統計調査（世論調査等）等

調査や評価指標により、全体・個別のがん施策の進捗や達成度を評価

全体
目標

個別
目標

第3期がん対策推進基本計画

科学的根拠に基づく
がん予防・がん検診の充実
【4項目】

- (1) がんの1次予防
- (2) がんの早期発見、がん検診（2次予防）

【23項目】

患者本位のがん医療の
実現
【6項目】

- (1) がんゲノム医療
- (2) がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法
- (3) チーム医療
- (4) がんのリハビリテーション
- (5) 支持療法
- (6) 希少がん、難治性がん
- (7) 小児がん、AYA世代のがん、高齢者のがん
- (8) 病理診断
- (9) がん登録
- (10) 医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組

【59項目】

尊厳を持って安心して
暮らせる社会の構築
【3項目】

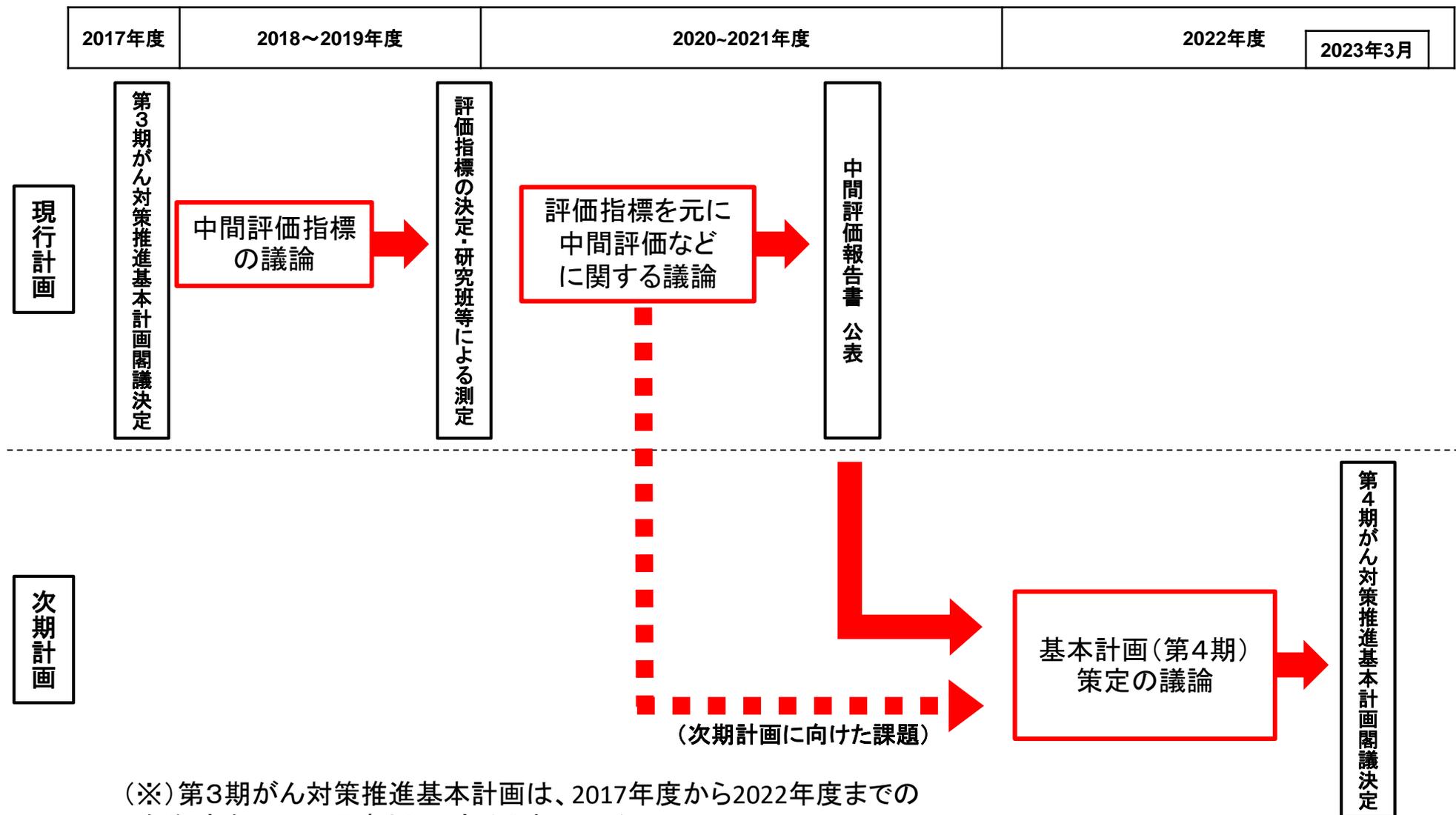
- (1) がんと診断された時からの緩和ケア
- (2) 相談支援、情報提供
- (3) 社会連携に基づくがん対策・がん患者支援
- (4) がん患者等の就労を含めた社会的な問題
- (5) ライフステージに応じたがん対策

【33項目】

全140項目

(1) がん研究 (2) 人材育成 (3) がん教育、普及啓発 【12項目】

がん対策推進協議会 今後のスケジュール(案)



(※) 第3期がん対策推進基本計画は、2017年度から2022年度までの6年程度を一つの目安として定められている。

3. がんとの共生

緩和ケア

現状・課題

- ◆ 患者の苦痛に対して、迅速かつ適切なケアが十分提供されていない。
- ◆ 緩和ケア研修会の受講勧奨、受講の利便性の改善、内容の充実が求められている。

全国のがん患者の患者体験調査	(n=5234)
からだのつらさがあると答えた患者の割合	34.5%
気持ちのつらさがあると答えた患者の割合	28.3%



出典：平成27年患者体験調査

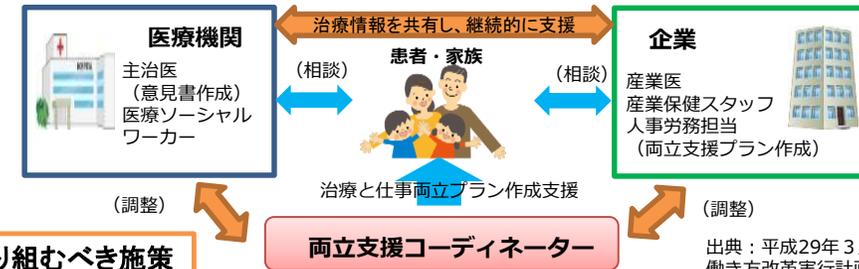
取り組むべき施策

- ◆ 苦痛のスクリーニングの診断時からの実施、緩和ケアの提供体制の充実
- ◆ 緩和ケア研修会の内容や実施方法の充実

がん患者の就労支援・社会課題への対策

現状・課題

- ◆ 離職防止や再就職等の就労支援に、充実した支援が求められている。
- ◆ アピアランスや生殖機能温存等の相談支援、情報提供する体制が構築されていない。



取り組むべき施策

- ◆ がん患者への「トライアングル型サポート体制」の構築
- ◆ アピアランス支援研修会の開催、生殖機能温存等に関する相談支援、情報提供のあり方の検討

出典：平成29年3月28日
働き方改革実行計画改変

相談支援・情報提供

現状・課題

- ◆ がん相談支援センターが十分に利用されていない。
- ◆ がんに関する情報が氾濫し、正しい情報取得が困難な場合がある。

取り組むべき施策

- ◆ 治療早期からのがん相談支援センターの利用促進、体制整備
- ◆ 科学的根拠に基づく情報提供、医業等のウェブサイト監視体制強化

社会連携に基づくがん対策・がん患者支援

現状・課題

- ◆ 拠点病院等と地域の医療機関等との連携、在宅医療を提供する施設におけるがん医療の質の向上を図る必要がある。

取り組むべき施策

- ◆ 多職種連携の推進、地域の施設間の調整役を担う者の養成

ライフステージに応じたがん対策

現状・課題

- ◆ 小児・AYA世代において、多様なニーズが存在し、成人のがんとは異なる対策が必要とされている。
- ◆ 高齢者は、認知症を合併することが多いが、がん医療における意思決定等の基準は定められていない。

取り組むべき施策

- ◆ 小児・AYA世代のがん経験者の長期フォローアップ体制の整備
- ◆ 認知症等を合併したがん患者や、看取り期における高齢のがん患者の意思決定支援策の検討

第1 全体目標

3. 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

第75回がん対策推進協議会
資料7-1より抜粋・一部改変

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3001	自分らしい日常生活が送ることができていると感じるがん患者の割合	2018年度患者体験調査 (問35-7)	70.5% [80.8%](※)	[77.7%] (2014年度調査)
3002	がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	2018年度患者体験調査 (問12)	76.3%	67.4% (2014年度調査)
3003	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	2018年度患者体験調査(問30-2) 2019年度小児患者体験調査(問40-2)	成人: 48.7%[57.6%] (※) 小児: 39.7%	成人: [37.1%] (2014年度調査)

(※) 前回調査と比較するために、実測値に比較補正係数をかけた値。

(注) 項目番号3001-3003の患者体験調査の対象となる患者は19歳以上。

項目番号3003の小児患者体験調査の対象となる患者は18歳以下。回答者はその家族等。

(2) 相談支援及び情報提供

① 相談支援について

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3021	がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合(3002再掲)	2018年度患者体験調査 (問12)	76.3%	67.4% (2014年度調査)
3022	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合(3003再掲)	2018年度患者体験調査 (問30-2) 2019年度小児患者体験調査 (問40-2)	成人: 48.7% [57.6%](※) 小児: 39.7%	成人: [37.1%] (2014年度調査)
3023	がん相談支援センター/相談支援センターについて知っているがん患者・家族の割合	2018年度患者体験調査 (問31) 2019年度小児患者体験調査 (問41)	成人: 66.4% 小児: 66.4%	成人: 56.0% (2014年度調査)
3024	ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	2018年度患者体験調査 (問32)	27.3%	なし

(※) 前回調査と比較するために、実測値に比較補正係数をかけた値。

(注) 項目番号3021-3024の患者体験調査の対象となる患者は19歳以上。

項目番号3022・3023の小児患者体験調査の対象となる患者は18歳以下。回答者はその家族等。

(2) 相談支援及び情報提供

② 情報提供について

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3025	がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた者の割合	2019年度国立がん研究センターがん情報サービス調査	71.6%	71.1% (2018年度調査)
3026	がん情報サービスにおける点字資料、音声資料数、資料の更新数	2019年度国立がん研究センターがん情報サービス調査	更新なし	8コンテンツ(音声)を更新 (2018年度調査)

(3) 社会連携に基づくがん対策・がん患者支援

① 拠点病院等と地域との連携について

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3031	1拠点病院あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数	2019年度現況報告(※)	5.5回 [2,397回／436拠点病院]	5.0回 [2,197回／437拠点病院] (2018年度報告)
3032	がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	2018年度患者体験調査(問13)	34.9%	40.3% (2014年度調査)

(※) 前年1～12月分の実績を集計している。

(注) 項目番号3032の患者体験調査の対象となる患者は19歳以上。

(3) 社会連携に基づくがん対策・がん患者支援

② 在宅緩和ケアについて

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3033	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	2018年度がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業	78.8%	なし
3034	望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	2018年度がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業	47.7%	なし

(4) がん患者等の就労を含めた社会的な問題(サバイバーシップ支援)

① 就労支援について (ア) 医療機関等における就労支援について

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3041	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	2018年度患者体験調査(問28)	39.5%	なし
3042	がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	2018年度患者体験調査(問29-1)	82.3%	なし
3043	退職したがん患者のうち、がん治療の開始前までに退職した者の割合	2018年度患者体験調査(問29-3)	56.8%	なし
3044	ハローワークと連携した就職支援を行っている拠点病院等の数	2019年度長期療養者に対する就職支援事業	216病院	158病院 (2018年度)
3045	がん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	2019年度現況報告(※1)	29,070件(※2)	22,497件(※2) (2018年度報告)

(※1) 前年1～12月分の実績を集計している。

(※2) 2019年度報告の対象は436病院で、1病院あたり平均66.7件、2018年度報告の対象は437病院で、1病院あたり平均51.5件となっている。

(注) 項目番号3041-3043の患者体験調査の対象となる患者は19歳以上。

(4) がん患者等の就労を含めた社会的な問題(サバイバーシップ支援)

① 就労支援について (イ) 職場や地域における就労支援について

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3046	治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合	2018年度患者体験調査(問27)	36.1%	なし
3047	治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされているがん患者の割合	2018年度患者体験調査(問26)	65.0% [70.8%](※)	[68.3%] (2014年度調査)

(※) 前回調査と比較するために、実測値に比較補正係数をかけた値。

(注) 項目番号3046・3047の患者体験調査の対象となる患者は19歳以上。

(4) がん患者等の就労を含めた社会的な問題(サバイバーシップ支援)

② 就労以外の社会的な問題について

第75回がん対策推進協議会資料7-1及び第76回がん対策推進協議会資料1より抜粋・一部改変

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3048	外見の変化に関する相談ができたがん患者の割合	2018年度患者体験調査(問22) 2019年度小児患者体験調査(問22)	成人: 28.3% 小児: 51.8%	なし
3049	治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合(40歳未満)	2018年度患者体験調査(問16) 2019年度小児患者体験調査(問13)	成人: 52.0% 小児: 53.8%	成人: 48.2% (2014年度調査)
3050	がん患者の自殺数	2016年度革新的がん自殺研究推進プログラム 「がん患者の専門的精神的・心理的なケアと支援対策に関する研究」	145人(※)	なし

(※) 2016年1～6月にがんと診断されたがん患者 546,148人のうち、がん診断後6ヶ月以内に自殺で亡くなった方の人数。

(注) 項目番号3048・3049の患者体験調査の対象となる患者は19歳以上。

項目番号3048・3049の小児患者体験調査の対象となる患者は18歳以下。回答者はその家族等。

(5) ライフステージに応じたがん対策

① 小児・AYA世代について

項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
3051	小児がん拠点病院のうち院内学級体制・宿泊施設を整備している施設の割合(※1)	2019年度現況報告	100% (15/15) (2019年度)	100% (15/15) (2018年度報告)
3052	治療開始前に、教育支援等について、医療従事者から説明を受けたがん患者・家族の割合	2019年度小児患者体験調査 (問37)	68.1% (2019年度)	なし
3053	治療中に、学校・教育関係者から、治療と教育の両立に関する支援を受けた家族の割合	2019年度小児患者体験調査 (問39)	76.6% (2019年度)	なし
3054	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合 (3003再掲)	2018年度患者体験調査(問30-2) 2019年度小児患者体験調査(問40-2)	成人: 48.7% [57.6%] (※2) (2018年度) 小児: 39.7% (2019年度)	成人: [37.1%] (2014年度調査)

(※1) 新型コロナウイルス感染拡大による現場の状況を鑑み、2019年実績の報告は一部の医療機関を除き中止したため、小児がん拠点病院のみのデータとなっている。

(※2) 前回調査と比較するために、実測値に比較補正係数をかけた値。

(注) 項目番号3054の患者体験調査の対象となる患者は19歳以上。

項目番号3052-3054の小児患者体験調査の対象となる患者は18歳以下。回答者はその家族等。

4. これらを支える基盤の整備

がん研究

現状・課題

- ◆ 「がん研究10か年戦略」に基づき、長期的視点を持って研究成果を産み出すこととしている。
- ◆ 一方で、現在のがん患者を取り巻く社会の状況に応じた更なる研究が求められている。

取り組むべき施策

- ◆ 「がん研究10か年戦略」の見直し
- ◆ AMEDによる、基礎的な研究から実用化に向けた研究までの一体的な推進
- ◆ 小児がん、希少がん、難治性がん等の標準的治療の確立や診療ガイドラインの策定
- ◆ 新たな治療法の開発が期待できるゲノム医療や免疫療法の研究の推進



国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

人材育成

現状・課題

- ◆ がん医療の進歩・細分化が進んだことや、がんの特性・ライフステージに応じた対応のため、専門的な人材育成が求められている。



取り組むべき施策

- ◆ がん医療や支援の均てん化に向けた、幅広い人材の育成についての検討
- ◆ がん医療を専門とする医療従事者の養成の継続
- ◆ ゲノム医療や希少がん及び難治性がんへの対応や、ライフステージに応じた対応ができる医療従事者等の育成



がん教育・がんに関する知識の普及啓発

現状・課題

- ◆ 学校におけるがん教育について、地域によって外部講師の活用や、教員の知識等が不十分。
- ◆ 民間団体が実施している普及啓発活動への支援が不十分。



取り組むべき施策

- ◆ 学校でがん教育を実施するため、教員や外部講師を対象とした研修会等の実施
- ◆ 民間団体や患者団体によって実施されている普及啓発活動の支援



(3) がん教育・がんに関する知識の普及啓発

第76回がん対策推進協議会資料1より抜粋・一部改変

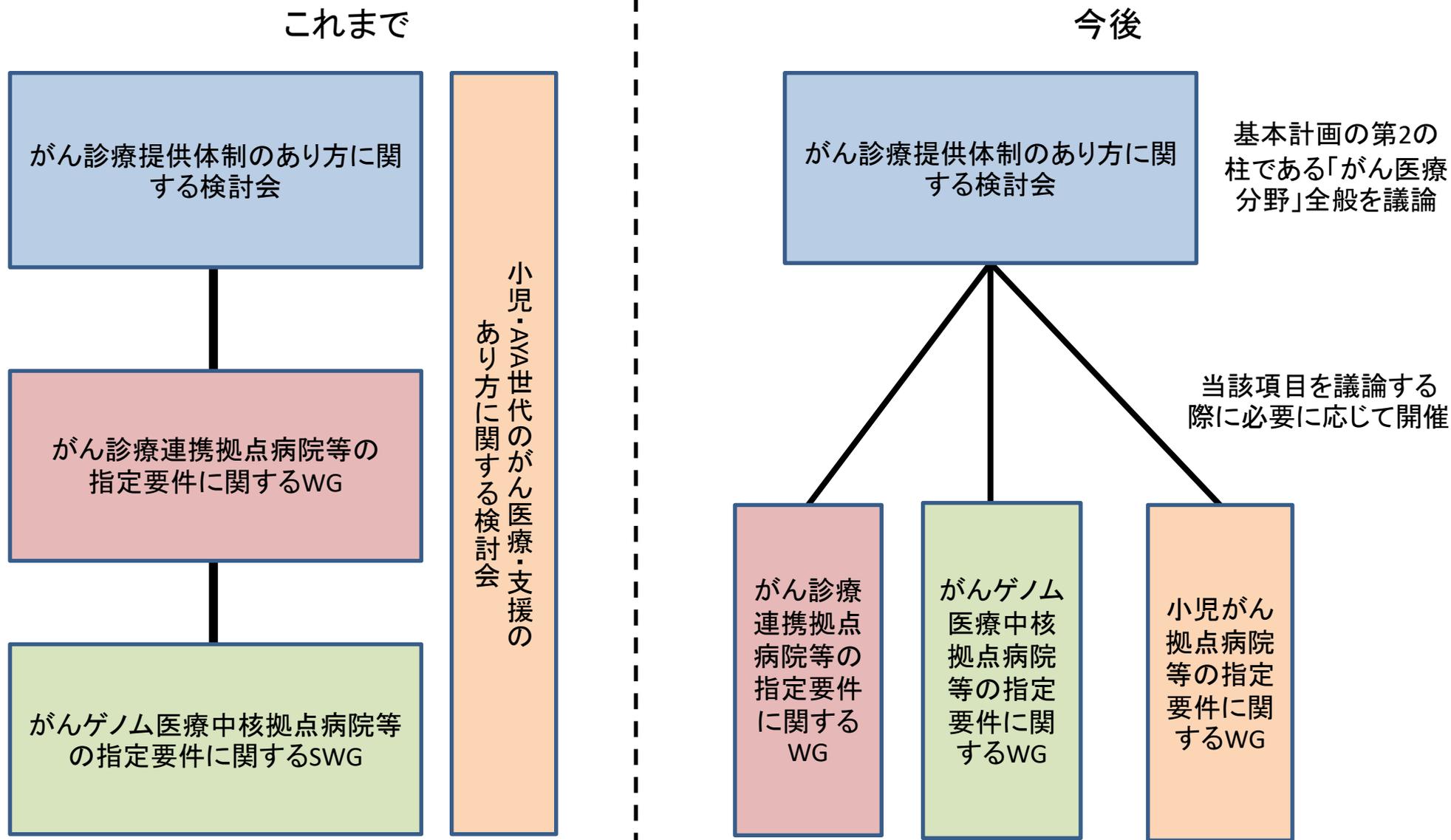
項目番号	中間評価指標	用いた調査	数値	参考数値
4031	外部講師を活用してがん教育を実施した学校の割合	2018年度におけるがん教育実施状況調査（文部科学省）	8.1%（2018年度） [3,007校/37,169校]（※）	7.2%（2017年度） [2,676校/37,375校]（※）
4032	がん相談支援センター/相談支援センターを知っている患者・家族の数（再掲）	2018年度患者体験調査（問31） 2019年度小児患者体験調査（問41）	成人：66.4%（2018年度） 小児：66.4%（2019年度）	成人：56.0% （2014年度）
4033	がん対策推進企業アクションの参加企業数	厚生労働省がん・疾病対策課調べ	3,553（2020年度）	2,908（2018年度）

（※） 外部講師を活用してがん教育を実施した学校/調査校の総数。

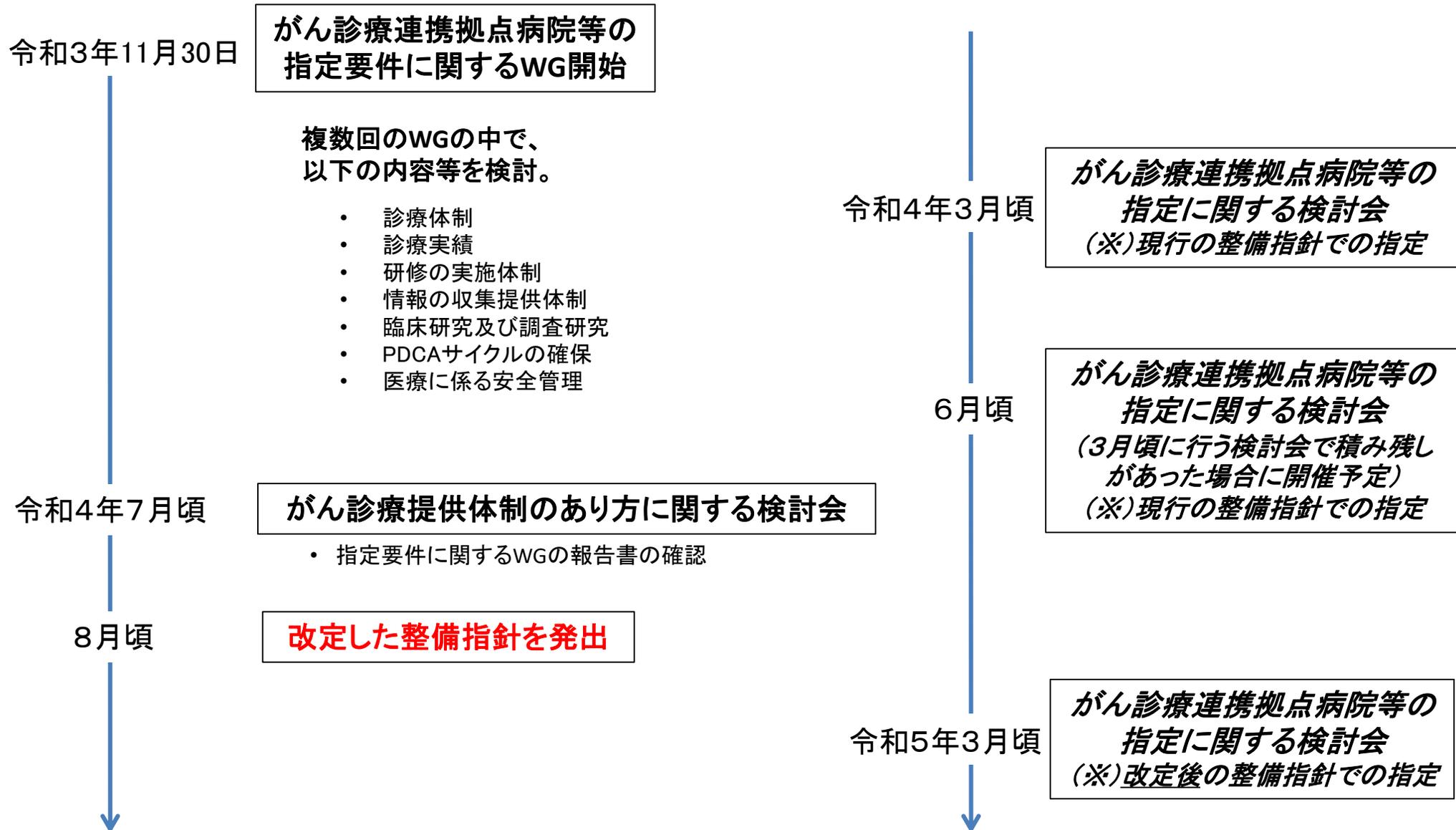
（注） 項目番号4032・4033の患者体験調査の対象となる患者は19歳以上。

項目番号4032の小児患者体験調査の対象となる患者は18歳以下、回答者はその家族等。

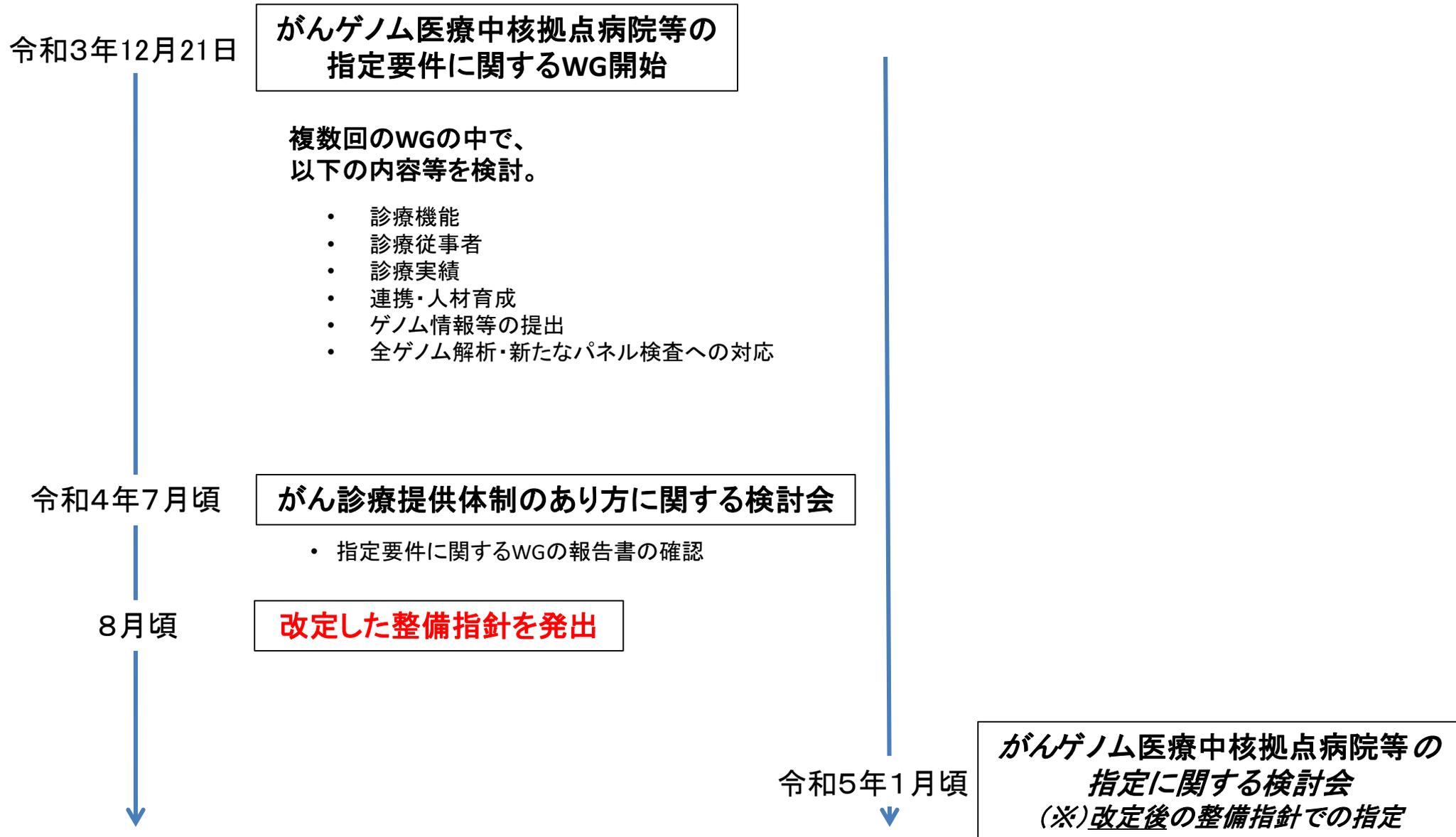
現在および今後のがん診療提供体制のあり方に関する検討会について



がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するWGの進め方(案)



がんゲノム医療中核拠点病院等の指定要件に関するWGの進め方(案)



小児がん拠点病院等の指定要件に関するWGの進め方(案)

令和4年1月17日

小児がん拠点病院等の指定要件に関するWG開始

複数回のWGの中で、
以下の内容等を検討。

- ・ 診療体制
- ・ 研修の実施体制
- ・ 情報の収集提供体制
- ・ 臨床研究に関すること
- ・ 患者の発育及び教育等に関して必要な環境整備
- ・ PDCAサイクル
- ・ 医療安全体制

7月頃

がん診療提供体制のあり方に関する検討会

- ・ 指定要件に関するWGの報告書の確認

8月頃

改定した整備指針を発出

令和5年2月頃

小児がん拠点病院等の
指定に関する検討会
(※)改定後の整備指針での指定

本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 本日の概要
3. 情報提供・相談支援分野の中間評価に向けた整理について
4. **第4期がん対策推進基本計画および次期整備指針策定のための提案に向けたアンケート結果報告ならびにそれに基づく今後の情報提供・相談支援部会の活動について**
 - 1) アンケートの結果報告
 - 2) 今後の活動について（ディスカッション）
5. がんと診断されて間もない人への情報資材作成について（報告）

**第4期がん対策推進基本計画策定および
次期整備指針策定のための
提案に向けたアンケート結果**

アンケートの概要

【調査目的】

第4期がん対策推進基本計画の策定への提案（提言書作成）に向けて、がん診療連携拠点病院で情報提供・相談支援に携わる立場から盛り込むべき課題等についての意見集約を行う。

・以下の事項について把握する。

1. コロナ禍におけるがん相談支援センターでの相談対応の状況
2. がん患者さんやご家族のがんに関する困りごとのうち、現在対応や解決がされていないこと
3. 「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存研究促進事業」に伴う相談支援の現場での対応状況

【調査対象】

国指定のがん診療連携拠点病院等（全451施設）

【調査期間】

2021年9月24日（金）～10月15日（金）

【回答施設】

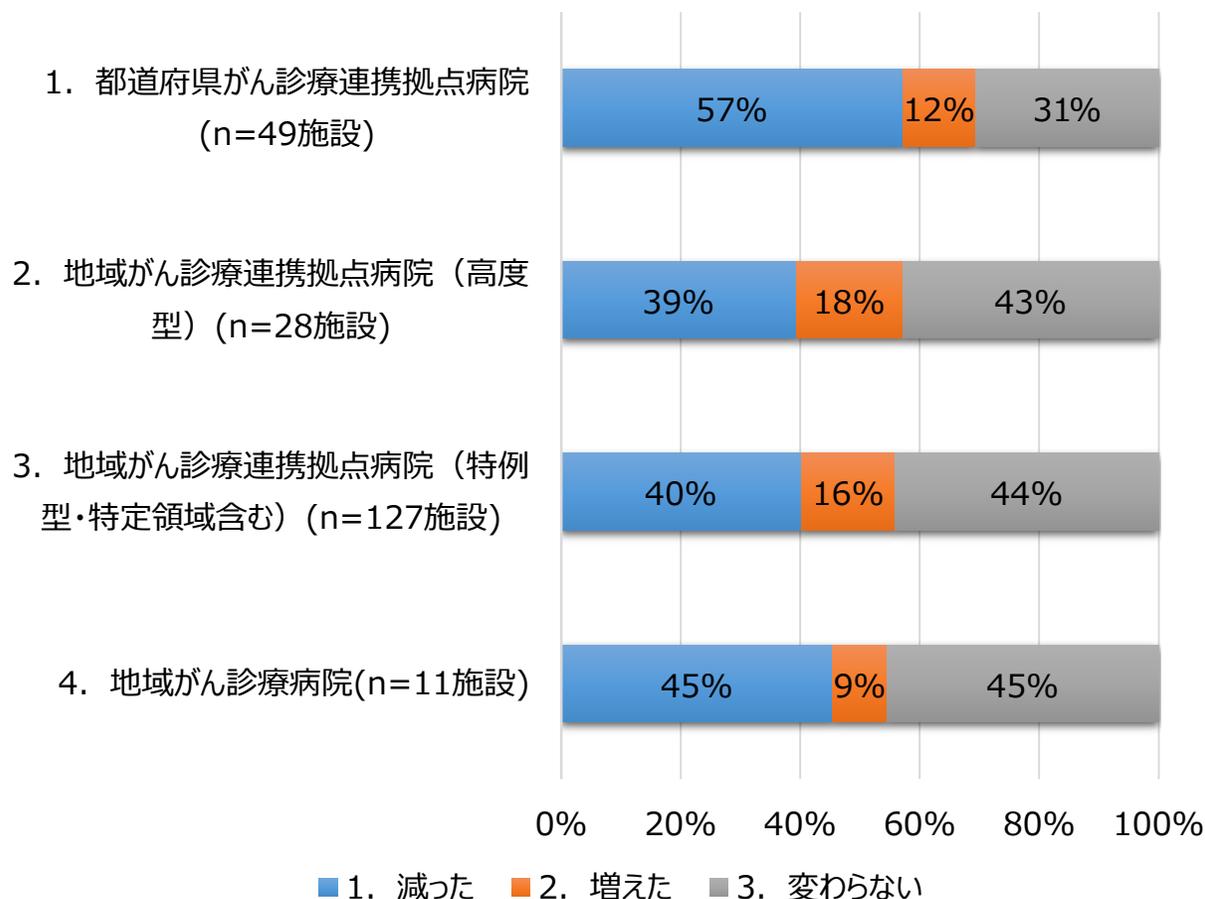
215施設（回収率：47%）

※施設分類数に修正があり表を差し替えました（2021/12/21）

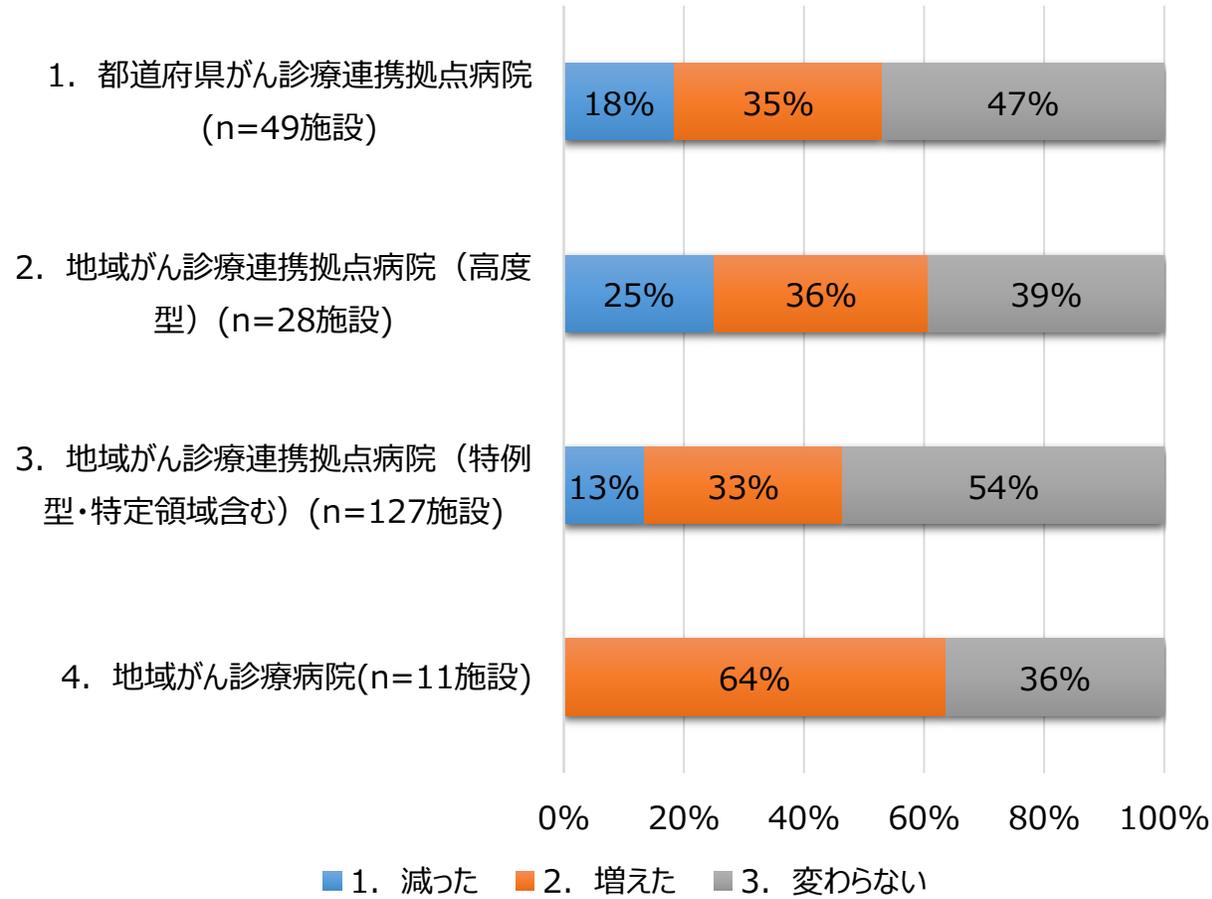
1. コロナ禍における相談対応に関する現状について(回答抜粋)

1-1. 新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した相談件数や相談対応の状況の変化

1)対面相談件数について



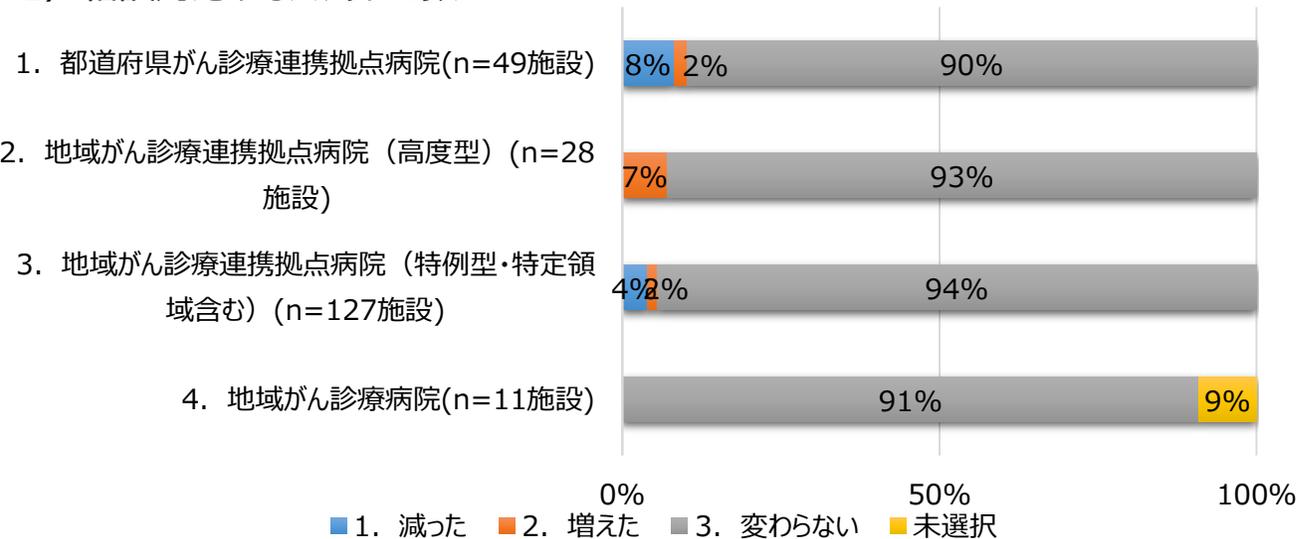
2)電話相談件数について



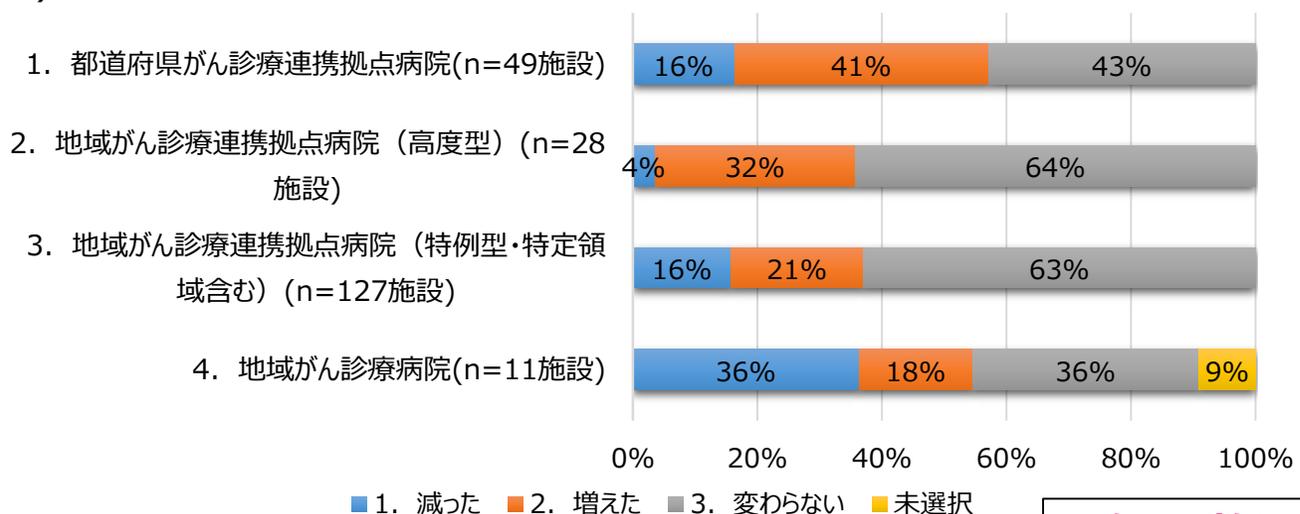
**「変わらない」と答えた施設が半数程度。
対面相談の件数が減り、電話相談の件数が増えた施設も多い。**

1-2. コロナ禍に伴う、業務に関する変化について（アンケート設問番号 1-3）

1) 相談対応するスタッフの数



2) スタッフ1人あたりの相談対応やその他相談支援センター内の業務量



業務量が減った理由	総数
<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数の減少 ・ピアサポート、その他のイベントの休止 ・合同カンファレンスや症例検討会の休止 ・研修がWEB開催となり移動時間の短縮 等 	43
業務が増えた理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン化に伴う業務の増加 ・対面が制限される中、コミュニケーション支援のための業務が増加 ・療養の場の相談、調整業務の増加 ・相談件数の増加 ・感染対策のための環境調整業務の増加 ・コロナ関連業務の増加 ・相談員の人数減により1人あたりの業務が増加 ・生活困窮、経済的な相談の増加 等 	75

**スタッフ数は変わらず。
1人あたりの業務量についても「変わらない」と答えた施設が半数程度**

4) オンラインでの対応に関わらず、**コロナ禍における家族支援**として、院内やがん相談支援センターで取り組んでいること

回答施設数 121施設

(回答抜粋)

- オンラインを活用しての面会・IC・カンファレンス・サロン・その他イベントの開催を行っている
- より丁寧できめ細やかな対応、病棟・多職種・他機関連携の強化
- 感染対策をした上で対面での対応を継続、電話相談・メール相談の強化 等

5) 相談や患者支援等に関して、**オンライン化に伴う懸念事項や課題等**

回答施設数 187施設

(回答抜粋)

- 個人情報保護・セキュリティの問題、設備・予算・人員がない
- オンラインを利用できない人、抵抗を感じる人、サポートが必要な人がいる
- 相談員もオンラインに慣れる必要がある（操作に慣れる、スキルの向上が必要）
- 対面での対応に比べ、様々な限界がある 他

個人情報の問題、利用できない人がいる、対面より話しにくい等、オンライン化については引き続き懸念点があり、オンラインの活用とともに、感染対策をしながら少しずつ制限の緩和を検討している

1-4. その他、新型コロナウイルス感染症の拡大に関連して起きていることで
 気になっていることや対応が必要と考えられること（アンケート設問番号 1-5）

回答施設数 140施設

主な記載内容	総数
<p>1. ピアサポート、その他イベントの開催について 休止中・再開できていない、再開の判断・基準をどうすべきか、オンライン形式で開催してみてもの課題等</p>	49
<p>2. 面会・来院制限、その影響で生じている問題について 患者・家族・医療者が対面して話す機会の減少/意思疎通・意思決定に支障がある/橋渡しが重要等</p>	41
<p>3. 相談・受診・検診控えの問題について 相談・受診・検診控えによる孤独や病状悪化、県外移動を伴う受診・セカンドオピニオンができない等</p>	36
<p>4. 治療・療養の場の調整に関する問題について 在宅療養希望の増加/地域連携強化が必要/受け皿の不足、カンファレンスができない等</p>	28
<p>5. 感染対策について 対面相談時の感染対策、プライバシー保護や相談対応の質の担保との両立等</p>	17
<p>6. コロナ禍における業務見直し、知識・スキルの強化が必要 対面の場合院外相談や匿名相談に対応できないため、その周知が必要等</p>	13
<p>7. がん患者のワクチン接種やコロナ罹患について ワクチン接種の相談が増加した、正確な情報の周知が必要</p>	5
<p>8. コロナ禍による収入減少、就労への影響について 収入減少による経済的な相談の増加、コロナ禍による経済的变化ががん患者の就労にも影響</p>	4

2. がん患者やご家族に関する困りごとのうち、現在対応や解決されていないことについて

2-1～2-3.

「がん医療」に関する困りごと、「生活」に関する困りごと、上記以外の困りごと（全体をまとめて分類）

回答施設数 190施設

主な記載内容	総数
1. 医療の進歩や体制の変化によって生じた困難 医療資源の格差や療養場所、在宅資源の不足 情報の過多や不足による問題/情報を得る手段がない 医療の限界	100
2. 現在の社会情勢の変化によって生じた困難 遠方への通院/転院/セカンドオピニオンができない 受診遅れによる病状悪化/がん発見の遅れ、 面会制限や受診同行制限による影響	95
3. 関係機関との連携不足 地域内の情報不足・連携不足	11

2-1～2-3.

「がん医療」に関する困りごと、「生活」に関する困りごと、上記以外の困りごと つづき

回答施設数 190施設

主な記載内容	総数
4. コミュニケーションエラーによる困難 医療者と十分にコミュニケーションが取れないことによる理解不足/不安・不満 患者・家族間の意向のずれ、不安感・孤独感 治療選択等の意思決定が難しい	127
5. 療養生活における困難 治療による副作用や後遺症についての対応の不足 病状や治療について受容できない	21
6. 社会資源の限界と要望 高額な治療や治療の長期化による問題、経済的支援制度の限界 介護保険制度の限界、社会保険制度の充実、就労支援や就学支援の強化 孤立者・困窮者の支援の強化	240
7. がん相談支援センターに対する要望 相談に行かない/行けない人への支援の必要性、支援が必要な人に継続的な相談を確保できていない 患者会やピアサポーターができていない	28

2-4. がん相談支援センターの役割、院内および院外等の連携体制、相談対応等、
がん相談支援センターの活動と直接かかわる事柄について課題と感じていることや困りごと

回答施設数 161施設

主な記載内容	総数
<p>1. 業務に関する困難 専門知識が必要な相談/多岐にわたる相談への対応力不足、幅広い業務範囲に対応できない、対応困難な事例に苦慮する、他部署等との連携不足、就労支援やAYA世代への支援不足、オンライン会議の不慣れさ、質担保や活動への評価が不十分等</p>	124
<p>2. 院内における機能や立場における困難 機能の線引き/役割が不明瞭、診療科ごとの活用状況が異なる、人材・人員不足/人材育成に対する困難 専門職種としての兼ね合い、中立的な立場を守ることと連携の難しさ等</p>	40
<p>3. アクセスに関する困難 立地や相談場所の確保が困難、医療者や患者・市民への周知/役割理解/活用不足、 コロナ禍の影響で広報活動が行えていない、相談にこない患者・家族へのアプローチ不足等</p>	70
<p>4. 地域とのネットワークに関する困難 コロナ禍において他施設スタッフとの連携が取りにくい、 カンファレンスが実施できていない/オンラインで情報共有が十分にできていないと感じる等</p>	14

2-5. 上記課題に対処するために**基本計画に盛り込んでほしいと考える内容**

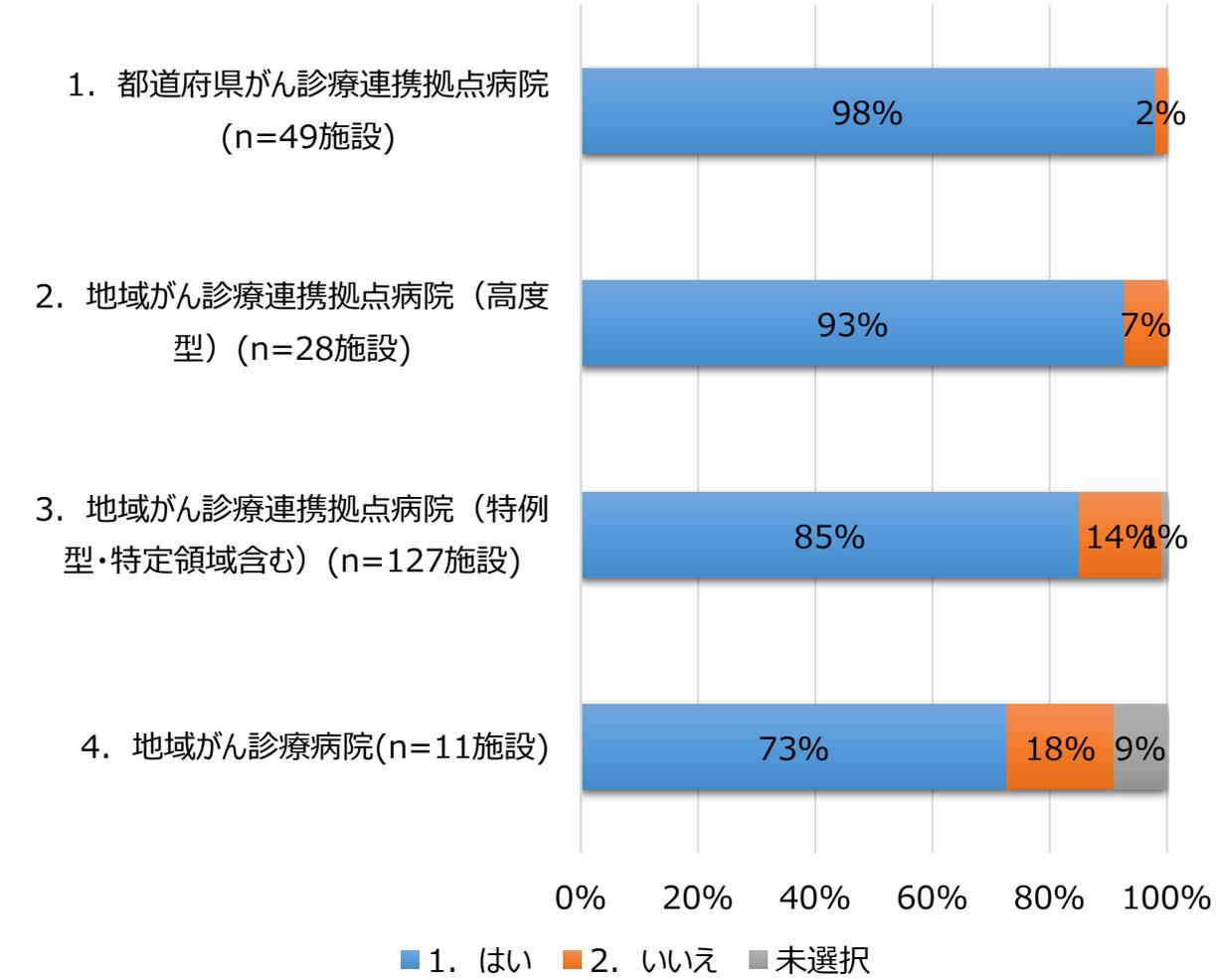
回答施設数 77施設

主な記載内容	総数
<p>1. がん相談支援センターについて 人員配置に関する規定がほしい、利用促進に向けた施策の検討、業務に対するバックアップ体制の構築、業務の整理と明確化・機能分化、学びの場の提供と質の維持、診療報酬への加算等</p>	44
<p>2. 在宅療養体制や地域ネットワークの充実について 在宅療養環境・システムの充実等</p>	11
<p>3. がん医療について どこでも情報提供・相談が受けられる体制づくり、セカンドオピニオン・緩和ケア/ACPへの理解促進等</p>	16
<p>4. 生活や療養について 就労支援・就学支援の充実等</p>	13
<p>5. 経済的支援や制度について AYA世代・現役世代に対する経済的支援の充実、社会保障制度の充実、介護保険制度の見直し等</p>	19
<p>6. オンライン化について オンライン整備に関する指針がほしい、オンライン化に対するバックアップがほしい等</p>	7

3. 「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存研究促進事業」について

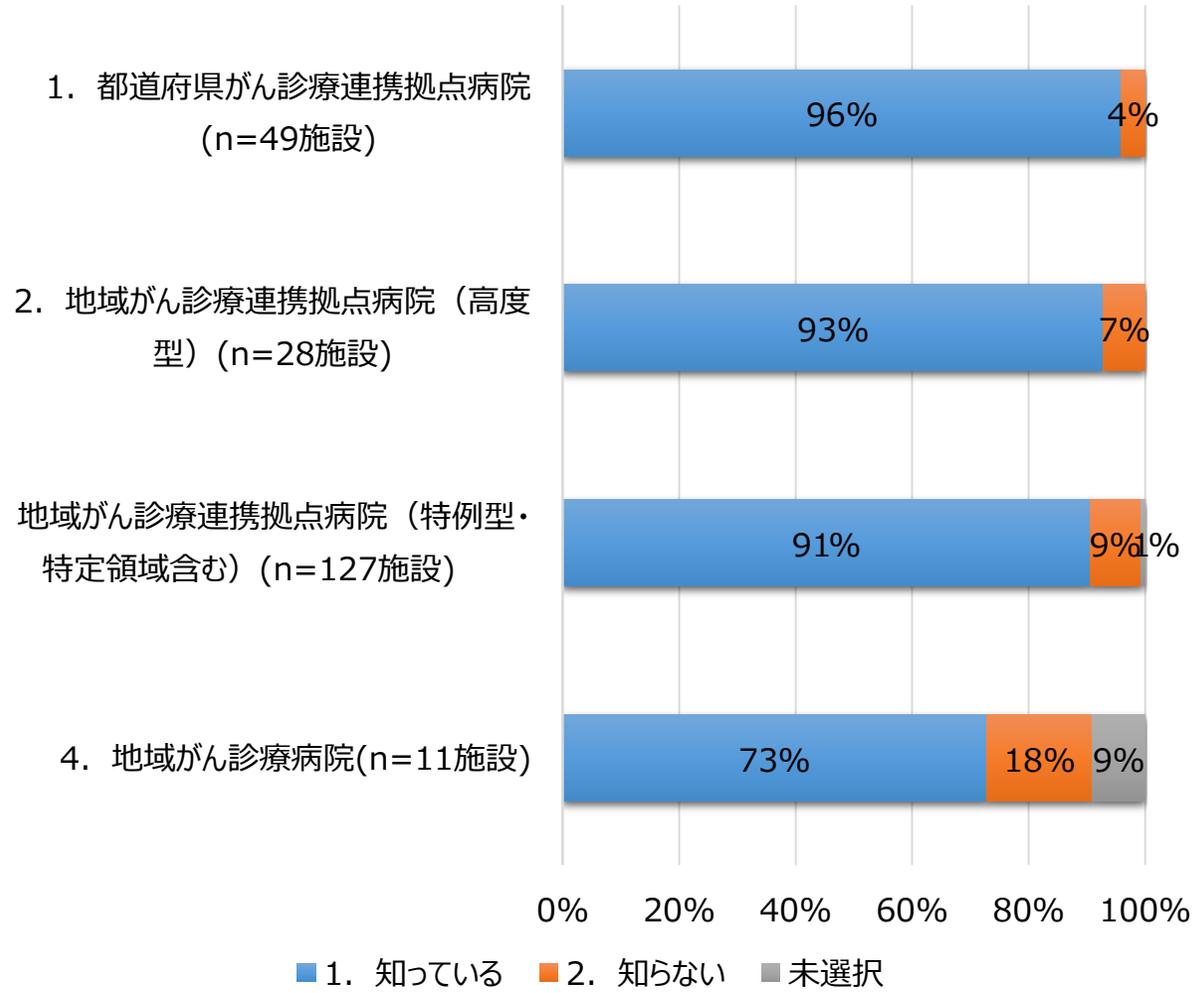
3-1 (アンケート設問番号 3-2)

「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存研究促進事業」の概要を知っているか



3-2 (アンケート設問番号 3-3)

本事業に関連する相談対応を行った経験はあるか



概要については概ね知っている。相談に対応した経験は半数程度。

3-3. 本事業に関連して起きている現場の困りごと（アンケート設問番号 3-4）

回答施設数 57施設

主な記載内容	総数
1. 相談支援センター内 スタッフが制度を理解できていない、全体の状況や連携後の転帰が不明 相談者の拾い上げやニーズの把握不足等	11
2. 制度内容について 妊孕性温存治療実施機関が限られている等	14
3. 制度の広報について 提供できる情報資材がない、全体的な国からの周知不足等	4
4. 制度の活用や体制について 医療者の制度や妊孕性温存に関する知識不足、対象者への説明が不十分、院内でのシステム構築が必要等	24
5. 治療との関連で生じる困りごと 意思決定に必要な時間が十分とれない、治療と妊孕性温存療法実施のタイミングが難しい等	7

3-4. 本事業に対して起きている現場の困りごとに対して工夫している対応等 (アンケート設問番号 3-5)

回答施設数 55施設

主な記載内容	総数
1. 対象患者洗い出しの工夫	5
2. 患者への広報活動の工夫 パンフレット等を作成/配布、関連部署や医療者からの積極的な情報発信の実施等	12
3. 院内での工夫 関係部署内での広報、関係する医療職種と体制構築等	19
4. 都道府県内情報共有の工夫 県内の相談員研修や部会での共有、学会・行政棟と情報共有、地域内の関連機関と連携等	11
5. 相談対応時の工夫 相談員の姿勢、多職種での意思決定を支援する等	5
6. 制度では網羅できない範囲への工夫	2

今回収集のアンケート結果

1. 本アンケートの結果（施設名が入った状態のもの）は、都道府県ごとにまとめ、それぞれの都道府県のがん対策主管課、および都道府県がん診療連携拠点病院にも共有させていただきます。

→各県でのご検討にご利用ください。

2. 全体のまとめ

- →考えられる課題と対策についての検討
- →整備指針や基本計画への提案の取りまとめ

整備指針および基本計画に向けた提言をまとめるためのWG設置の提案と、今後のスケジュールについて（予定）

- 2021年11月26日(本日) 整備指針および基本計画に向けた提言をまとめるためのWG設置の提案、WGメンバー募集開始
- **2021年11月30日（火） WGメンバー募集締め切り**
- 2021年12月 第1回WG開催
- 2022年01月 第2回WG開催
- 2022年02月 第3回WG開催
- 2022年03月 部会委員メーリングリストにて提言書案の確認・確定
- 2022年03月中 提言書を親会へ提出、親会を通じて厚労省へ提出
- :
- **2022年07月 次期整備指針の発出**

WGメンバーの募集について

- **目的**：次期整備指針に向け、情報提供・相談支援に関わる事項についての提言を取りまとめる
- **募集対象**：当部会の委員として登録されている方
- **募集人数**：8名程度（自薦/他薦、職種・病院種別・地域のバランスを考慮の上決定）
- **開催回数**：3回程度（状況により追加開催の可能性あり）
- **開催形式**：オンライン開催（zoom）
- **謝金**：部会活動の一環であるため謝金支払いはなし
- **応募方法**：
部会終了後に部会委員のメーリングリストでWG協力回答フォームをお送りします。フォームに必要事項を入力の上、部会事務局アドレス宛にご返信ください。
- **募集締切**：11月30日（火）まで

本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 本日の概要
3. 情報提供・相談支援分野の中間評価に向けた整理について
4. 第4期がん対策推進基本計画および次期整備指針策定のための提案に向けたアンケート結果報告ならびにそれに基づく今後の情報提供・相談支援部会の活動について
 - 1) アンケートの結果報告
 - 2) 今後の活動について（ディスカッション）
5. **がんと診断されて間もない人への情報資材作成について（報告）**

がんと診断されて間もない人への情報 提供資材（冊子）

ほぼ完成のご報告

がんと診断されて間もない人への情報資材作成
ワーキンググループ（WG）

がん情報サービス ganjoho.jp

がんと診断された
あなたに
知ってほしいこと



情報提供・相談支援部会として、 “診断後間もない人向けの情報資材作成”に協力していく

第15回情報提供相談支援部会（2020年11月27日）において承認

1. このたびの情報作成に関する協力依頼（協力者を募る）を、情報提供・相談支援部会として受けてもよいか。
2. 当部会の課題や課題解決の手段とも合致することから、今回の企画情報作成後の情報の効果的な活用方法については、部会として、積極的に関与、協力していく、としてよいか。

- 「**主治医等から**相談支援センターについて説明する等、**診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること**」（H30年7月31日 整備指針より）
- 「**拠点病院のすべての主治医（チーム）が**、すべての患者に、十分な時間をかけて、複数回以上のインフォームド・コンセント、セカンドオピニオンを得るために必要な支援、アドバンス・ケア・プランニング（意思決定支援の対応プロセス）等を行うことを通じて、**病初期から**治療終了に至るまで、患者にとって、**患者自身の意思が尊重されていることを実感できる体制**を拠点病院として確立することが必要である」

（第10回 情報提供・相談支援部会 2018/6/12 整備指針において記載すべき事項に関する意見書」参考資料4-2
https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryo10.html）

4 情報の収集提供体制

(1)がん相談支援センター

① 相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備すること。

ア 外来初診時等に**主治医等から**、がん患者及びその家族に対し、相談支援センターについて説明する等、**診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること。**

イ **地域の医療機関に対し、相談支援センターに関する広報を行うこと。**また、地域の医療機関からの相談依頼があった場合に受け入れ可能な体制を整備することが望ましい。

情報提供・相談支援部会 検討チーム WGメンバー (敬称略)

(2021年1月14日開始時点)

出江 洋介	東京都立駒込病院	医師／患者サポートセンター長
清水 理恵子	国立がん研究センター中央病院	社会福祉士
松永 直子	国立がん研究センター中央病院	社会福祉士
山内 智香子	滋賀県立総合病院	医師／滋賀県相談支援部会長
岡村 理	滋賀県立総合病院	社会福祉士・精神保健福祉士
伊藤 由美子	兵庫県立がんセンター	看護師
森田 勝	国立病院機構九州がんセンター	医師／がん相談支援センター部長
増田 昌人	琉球大学病院がんセンター	医師／がんセンター長

患者が冊子を手に取りるとき

患者に冊子を手にとってもらいたい時期

- ・ **がんの告知直後～初回治療開始（初回入院するとき）頃まで**



患者が冊子を手にする場面

- ・ **医師（医療者）から冊子を手渡される**
- ・ がん相談支援センターで冊子を手にとる
- ・ 院内のリーフレットラックで冊子を手にとる
- ・ 図書館などの公共機関のリーフレットラックで冊子を手にとる
- ・ がん情報サービスWebサイトで目にする



冊子を手にとった時に想定される患者の状況

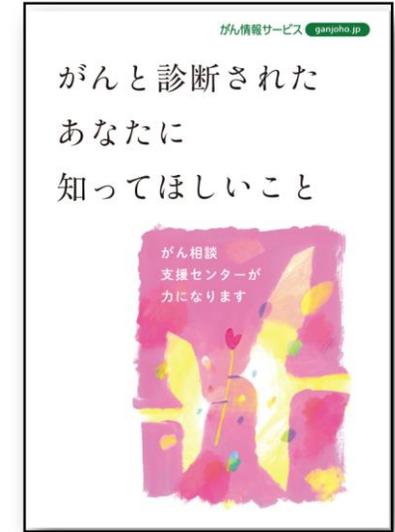
- ・ 診断されて、動揺している（ことが多い）
- ・ 治療や仕事、家族のことなど大切な選択や決断を迫られている（ことが多い）
- ・ でも、まだ何も考えられない…



冊子利用のメリット

医師（医療者）にとってのメリット

- 伝えたいけれど十分に伝えられない情報を補完できる
 - 標準治療について、セカンド・オピニオン（受けられること、しくみ）
 - 妊孕性（治療を始める前に伝える必要がある情報）
 - 就労支援（「仕事をすぐに辞めないで」） …等
- 多職種で連携しやすくなる
 - がん相談支援センターの紹介：困った時には、だれかに相談してほしい！
そんな場として利用できる「がん相談支援センター」をいち早く紹介でき、多職種で連携し、患者や家族に必要な情報提供やサポートができる



+

患者にとってのメリット

- 必要な情報を得ることができる
 - 冊子内のQRコードを利用すれば、さらに詳しい情報が得られる
 - 「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」

+

「地域のがん情報」「がんの冊子」「わたしの療養手帳」も併せて手に取ることで、それぞれの状況に応じ必要な情報が得られる



地域のがん情報

がんの冊子

わたしの療養手帳

今後の予定、ご協力をお願い

・冊子査読のご協力をいただいた皆様、誠にありがとうございました。



■「本冊子」の周知・配布のご協力をお願い

■今後の予定

■ 2022年2月頃：「がん情報サービス」上へ公開

■ 施設内への紹介用資材（PPT）も国拠点病院サポートページに掲載予定

■ 2022年3月初旬：冊子発注システムにより「購入冊子注文開始」

■ →各施設への初回納品（5月半ば）

■「本冊子」の活用効果に関する調査のご協力をお願い

■今後の予定

■ 今後、冊子配布の有用性と活用に関する調査を行います。（厚労科研研究班協力のもと）

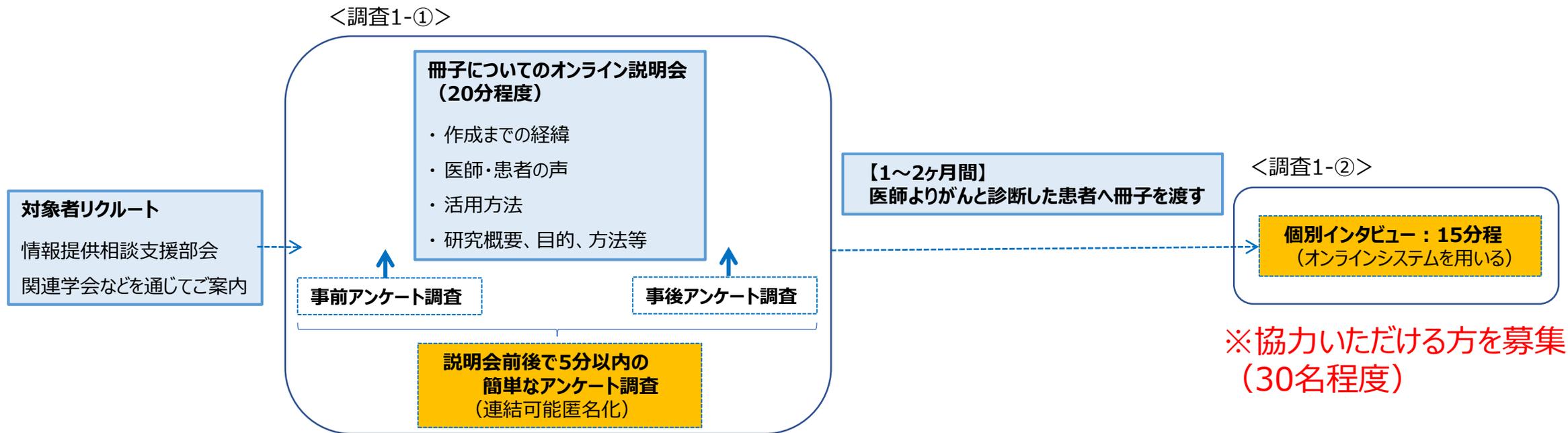
● 2022年3月頃～5月頃

● I “医師”への周知と活用に関するアンケート・インタビュー調査（個々の医師を対象）

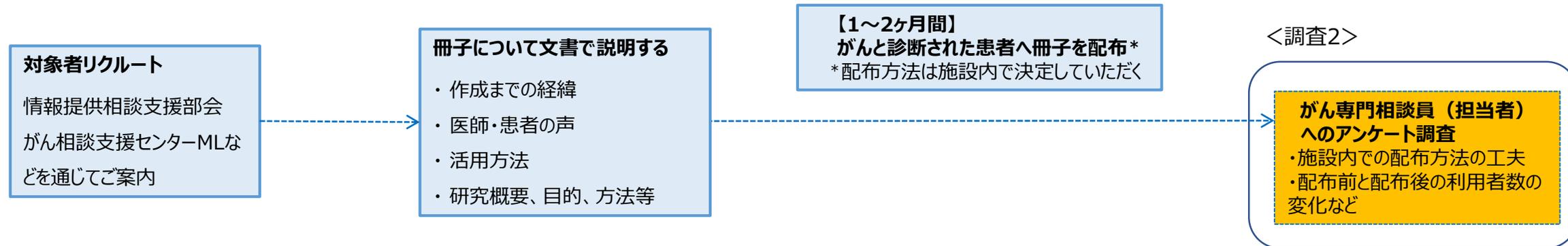
● II 施設内での「本冊子の効果的な周知と活用方法」に関する調査（相談支援センターを対象）

研究のアウトライン（予定）

研究Ⅰ：医師個人を対象とした調査



研究Ⅱ：がん相談支援センターを対象とした調査



「本冊子」の活用効果に関する調査

- 2月頃 がん相談支援センターのMLを通じて、ご協力いただける施設のルートご案内させていただきます。
- ご協力可能かどうか、ぜひご検討をお願いします。
 - 施設としての協力が難しい場合にも、医師へのご案内等のご協力をお願いできれば幸いです。
 - 実施主体：厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合事業（R2年度～）
「がん患者の個々のニーズに応じた質の高い相談支援の提供に資する研究」（研究代表者 高山 智子）

本日の内容

6. 大阪府「がん相談支援センターご利用にあたってのアンケート」調査実施について

7. 地域相談支援フォーラムin山形（オンライン開催）の報告・質疑

8. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

9. その他

1) オブザーバーからのコメント

2) 連絡事項

10. 閉会のあいさつ

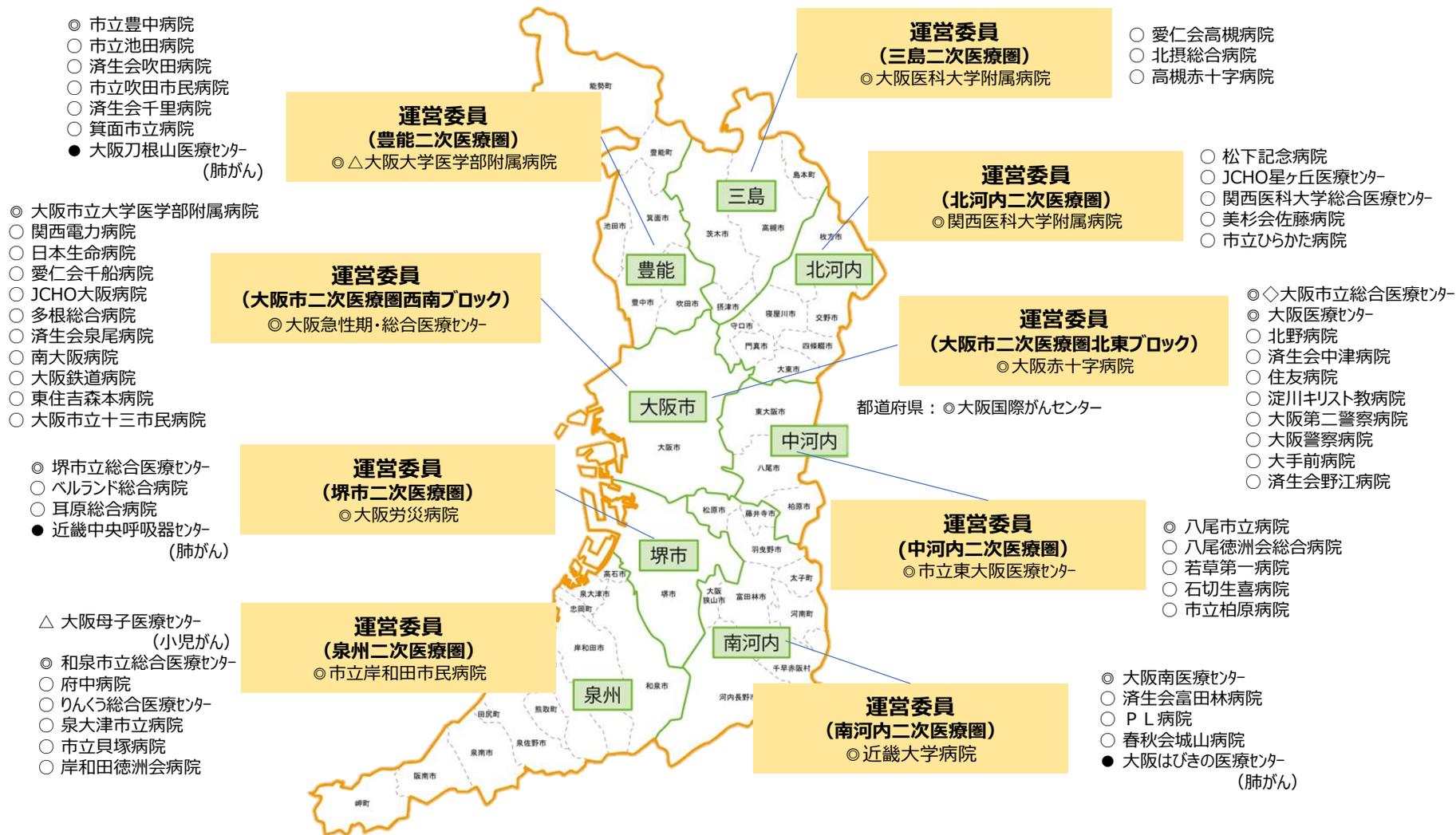
大阪府

「がん相談支援センターご利用にあたってのアンケート」 調査実施について

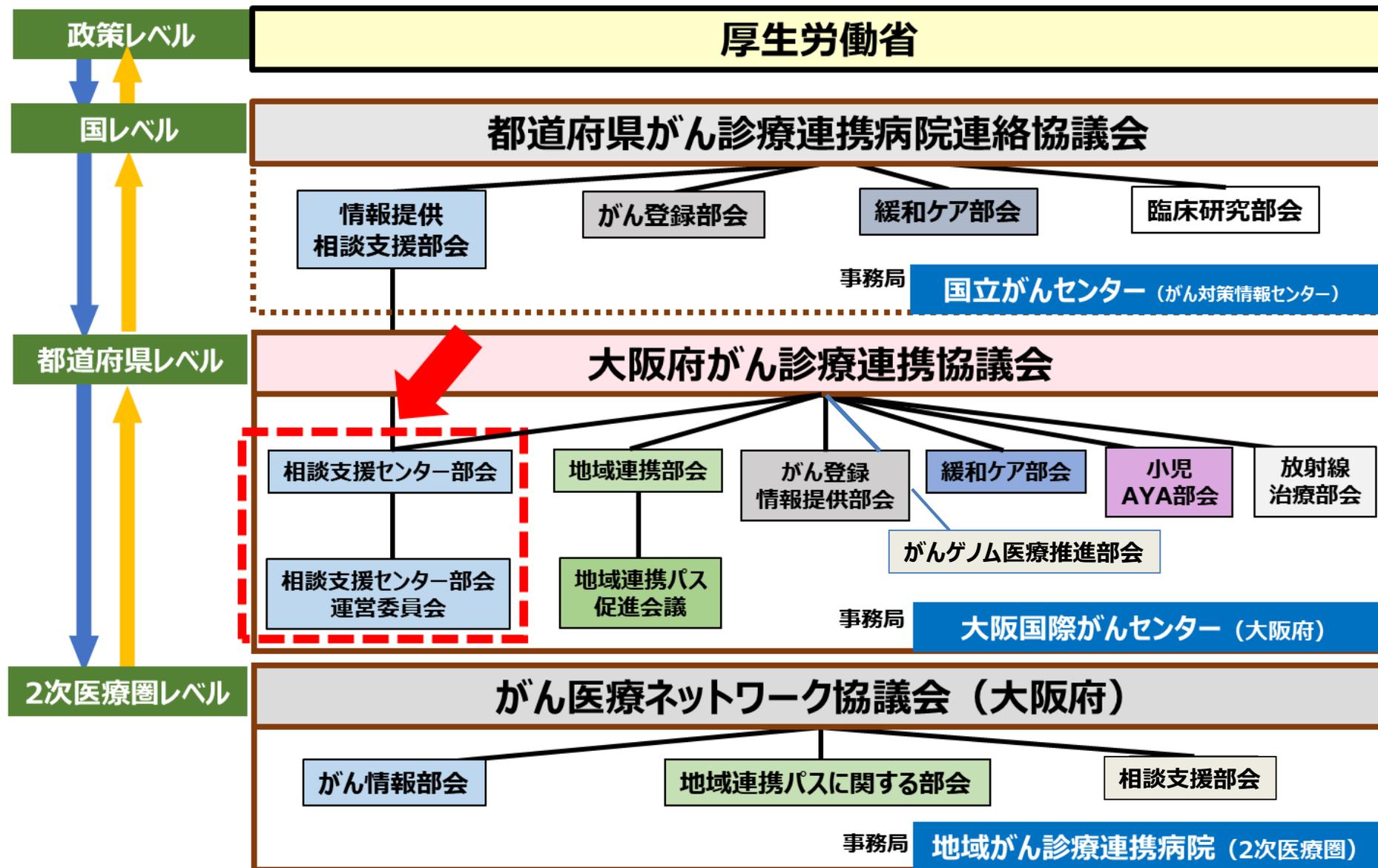
大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課 生活習慣病・がん対策グループ

大阪府がん診療連携協議会 相談支援センター部会

大阪府がん診療連携協議会 相談支援センター部会 構成施設



大阪府がん診療連携協議会の全体像



調査実施の経過

- 2018/07** 大阪府がん診療連携協議会において会長から利用者アンケート実施提案
- 2018/10～** 府主管課/部会事務局でアンケート実施に向けた準備開始
- 2019年度** 府相談支援センター部会（2回）で計画吟味し、実施計画を決定

- 2019/12** 都道府県拠点病院（研究代表施設）にて**倫理審査**
- 2020/01～** 府主管課から各施設長に計画説明、各施設に**倫理審査**等の準備依頼
- 2020/05～** 当初予定では5～7月を調査実施機関と計画したが**コロナ禍のため延期**
無期延期の意見もあったが、**3ヶ月延期**して実施することを決定
- 2020/08～** 調査実施（～10月末）/業者による集計/データ整理（～12月末）
- 2020/03** 二次医療圏ごとのデータを提供し圏域ごとに分析/報告書作成
- 2021/06** 府相談支援センター部会にて各二次医療圏から報告
- 2021/08** 大阪府がん診療連携協議会（親会）にて府全体版報告/研究終了

調査実施の経過

府相談支援センター部会での各施設への説明

がん相談支援におけるプロセスとアウトカム

(例) 医療計画の指標の分類に関する3用語

- **アウトカム指標**  **がん相談支援センター利用者アンケート**
住民の健康状態や患者の状態を測る指標
- **プロセス指標**  **PDCAサイクルチェックリスト**
実際にサービスを提供する主体の活動や、他機関との連携体制を測る指標
- **ストラクチャー指標**
医療サービスを提供する物的資源、人的資源及び組織体制、外部環境並びに対象となる母集団を測る指標

厚生労働省

調査実施の経過

府相談支援センター部会での各施設への説明



【1】がん相談支援センター利用者アンケート調査の目的

事業概要

がんの相談窓口利用者の実態や体験を把握するため、府で統一した様式を用いてがん相談支援センター利用者向けのアンケート調査を実施。各圏域で、調査結果をもとに分析を行っていただき、分析結果を含めて大阪府がん診療連携協議会において報告いただく。

事業の目的

大阪府内のがん診療（連携）拠点病院のがん相談支援センターで行われているがん相談支援が、**利用者ニーズに十分に対応し満足できる提供ができてきているかを評価**し、本調査の結果を、府内のがん相談支援センターが果たしている役割を検証するための重要な資料とする。

2020/08/01～ 大阪府/相談支援センター部会 がん相談支援センター利用者調査

事業概要	大阪府下の国・府がん拠点病院等がんの相談窓口利用者の実態や体験を把握するため、府で統一した様式を用いてがん相談支援センター利用者向けのアンケート調査を実施する/各圏域で、調査結果をもとに分析を行い、分析結果を含めて大阪府がん診療連携協議会において報告する（各圏域での結果分析、報告については計画修正あり）
実施主体	大阪府/大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会 （各病院において倫理審査を経て実施）
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・がん相談支援センターを利用した20歳以上の方（がん患者に限らない） ・本人自身による自己式調査票の記入が可能である者 ・調査協力することによる心身の負担の影響が大きいと予測される場合には除外する ・自由意志による回答
調査期間	2020年8月1日～2020年10月31日
回収率*	全施設 20.8% （国指定拠点病院 38.5% 大阪府指定拠点病院14.6%） *回収率の分母は配布上限数（国指定施設40部/府指定施設：30部）として算出した
備考	各圏域において調査結果検討し2021年3月末に部会事務局で回収済み 今後、定期的に調査を実施するか検討する

概要

1. 調査目的

大阪府内のがん診療（連携）拠点病院66施設のがん相談支援センターで行われているがん相談支援が、利用者ニーズに十分に対応し利用者が満足できる提供ができているかを評価するために、がん相談支援センター利用者を対象に、府内統一した満足度調査票によるアンケート実態調査を行う。大阪府健康医療部は、本調査の結果を、府内のがん相談支援センターが果たしている役割を検証するための重要な資料とする。

2. 調査方法 →割愛

3. 調査結果

1) 回答・回収状況

集計対象回答総数 **477**

回収率 **20.8%**（国指定**38.5%**、大阪府指定**14.6%**）

施設別回収状況では回収0件の施設は国指定0施設、大阪府指定12施設
調査終了時に各施設において調査票を配布した数は把握していない。

概要

3. 調査結果

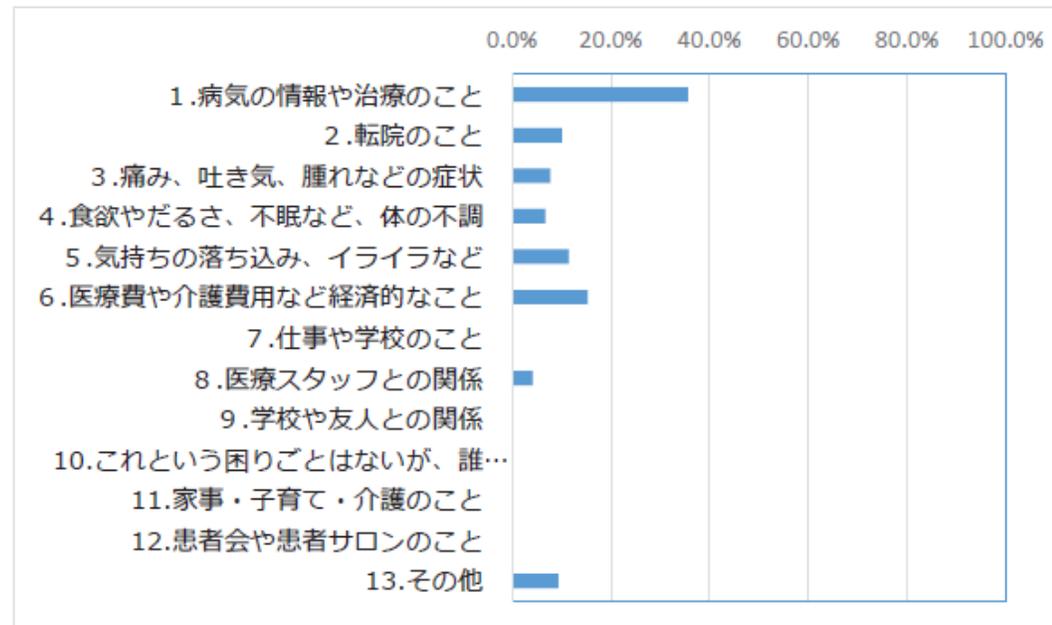
2) 集計対象者の属性

報告書 p5~7 表 2~4 / 資料グラフ 1~6

3) 相談内容、相談員対応、相談支援センターの利用について

報告書 p7~8 表 5 / 資料グラフ 7~24

グラフ 7「相談目的」



概要

3. 調査結果

3) 相談内容、相談員対応、相談支援センターの利用について

報告書 p7~8 表 5 / 資料グラフ 7~24

Positive

ア) 調査項目における肯定的回答（「とてもそう思う」「ややそう思う」の和 上位5件 降順）

2-3)	相談員は、あなたの相談に対して真摯に取り組んでくれたか	94.7%
2-2)	がん相談支援センターは相談しやすい雰囲気だったか	91.0%
2-4)	相談員は、病院や主治医に言えないことも話せる雰囲気だったか	89.7%
2-7)	あなたが必要な情報が得られたか	89.1%
2-5)	相談員は、病院から中立な立場をとっていたか	87.8%

イ) 調査項目における否定的回答（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の和 下位5件 昇順）

2-2)	がん相談支援センターは相談しやすい雰囲気だったか	0.8%
2-3)	相談員は、あなたの相談に対して真摯に取り組んでくれたか	1.0%
2-4)	相談員は、病院や主治医に言えないことも話せる雰囲気だったか	1.0%
2-6)	あなたの問題は相談員に理解してもらえたか	1.2%
2-5)	相談員は、病院から中立な立場をとっていたか	1.5%
2-1 2)	がん相談支援センターをまた利用したいか	1.6%

概要

3. 調査結果

3) 相談内容、相談員対応、相談支援センターの利用について

報告書 p7~8 表 5 / 資料グラフ 7~24

Negative

ウ) 調査項目における肯定的回答（「とてもそう思う」「ややそう思う」の和 下位5件 昇順）

2 - 1 1)	相談したことで担当医や看護師との関わりが良い方向に変わったか	60.3%
2 - 1 0)	相談したことで安心な治療治療や療養生活ができるようになったか	61.8%
2 - 9)	相談したことで今後の困りごとに自分で対応することができるか	66.2%
2 - 1 8)	がん相談支援センターの場所や案内はわかりやすいか	70.2%
2 - 1 4)	がん相談支援センターの相談に期待していたか	71.5%

エ) 調査項目における否定的回答（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の和 上位5件 降順）

2 - 1 8)	がん相談支援センターの場所や案内はわかりやすいか	11.3%
2 - 9)	相談したことで今後の困りごとに自分で対応することができるか	6.5%
2 - 8)	相談したかった問題は解決へ近づいたか	3.5%
2 - 1 7)	相談したいと思ってからすぐにがん相談支援センターを利用できたか	3.1%
2 - 7)	あなたが必要な情報が得られたか	2.3%
2 - 1 1)	相談したことで担当医や看護師との関わりが良い方向に変わったか	2.3%

概要

3. 調査結果

4) 意見や要望について (自由回答)

報告書 p9 / 資料 自由回答

- 相談員やがん相談支援センターへの謝辞、がん相談支援センター制度への肯定意見
- 施設内でがん相談支援センターへのアクセスのしにくさ
案内・掲示の欠如や、場所のわかりにくさ等、場所の悪さ
スタッフからの案内がなかった
- がん相談支援センターにおける相談環境
散らかっている / プライバシーが守られていない
- がん相談支援センター直通電話設置の要望
- がん相談支援センター相談員と相談対応の質の担保
高度な知識の習得・提供の要望
コミュニケーションスキル向上
がん罹患者へのさらなる心理的配慮
相談員が提供する情報の精緻化や情報提供ツールの拡充

概要

4. 考察

特殊な状況下であり、調査実施自体や調査結果をどうとらえるかについて否定的な意見も多くあったが、貴重なアウトカム調査となった。

「50～70歳代を中心」とした「がん患者本人」又は「家族」が「自施設」のがん相談支援センターを利用し、期待していたよりも高い満足度を示したと考えられる。その反面、数は少ないながらもがん相談支援センターの環境、相談員の姿勢、中立性等に満足しなかった回答者がいたことに目を向け、自施設がん相談支援センターの環境改善と相談員自らの質の担保を検証する必要があると考えられた。

5. 結論

十分な回答数が得られなかったが、がん相談支援センター利用者の体験を測定する結果が得られたと考える。今後、質問項目や配布方法の精緻化を行い、PDCAサイクルのプロセス評価と合わせて定期的の実施していく必要がある。

豊能医療圏
がん相談支援センター利用アンケート調査結果を踏まえた
相談支援の現状分析について

令和3年3月16日
市立豊中病院

三島医療圏
がん相談支援センター利用アンケート調査結果を踏まえた
相談支援の現状分析について

令和3年3月

北河内医療圏
がん相談支援センター利用アンケート調査結果を踏まえた
相談支援の現状分析について

令和3年3月2日
関西医科大学附属病院

中河内医療圏
がん相談支援センター利用アンケート調査結果を踏まえた
相談支援の現状分析について

令和3年3月12日
市立東大阪医療センター

南河内医療圏
がん相談支援センター利用アンケート調査結果を踏まえた
相談支援の現状分析について

堺市医療圏
がん相談支援センター利用アンケート調査結果を踏まえた相談支
援の現状分析について

令和3年2月
大阪労災病院

泉州医療圏
がん相談支援センター利用アンケート調査結果を踏まえた
相談支援の現状分析について

令和3年3月31日
市立岸和田市民病院

大阪市2次医療圏
がん相談支援センター利用アンケート調査結果を踏まえた
相談支援の現状分析について

令和3年3月10日
大阪市立大学医学部附属病院

各医療圏での分析・報告は
すでにネットワーク協議会で
作成され、6/26開催の
相談支援センター部会で
報告された

報告書 末尾からp3

施設長あて報告書の送付と共に大阪府がん診療連携協議会（親会）にて各施設長に向けてアピールを行った

2021/8/5 大阪府がん診療連携協議会における報告（府全体版）

謝辞とお願い

新型コロナウイルスへの診療対応、緊急事態宣言下の状況において、施設管理者の先生方には本調査への多大なご支援、ご協力を賜り実施しましたことに心から感謝を申し上げます。

報告書を精査いただき、「**がん相談支援センターを利用した477人の声**」として貴施設におけるがん相談支援センターの利用しやすさの改善、相談員と相談対応の質の向上にご活用いただければ幸いです。

本件お問合せ

大阪府がん診療連携協議会
相談支援センター部会事務局
大阪国際がんセンターがん相談支援センター内
☎ 06-6945-1181（代表）
Email oici-sien@oici.jp

アンケート実施に関するまとめ

特殊な状況下であり、調査実施自体や調査結果をどうとらえるかについて否定的な意見も多くあったが、貴重なアウトカム調査となり、継続すべきという意見も見られた。

調査依頼方法（相談の前後/誰が依頼するかなど）の標準化と、依頼について施設全体の協力が必要であるという意見が見られた。

倫理審査に不慣れな施設（相談支援センター）に対するサポートが必要と考えられた。

利用者アンケート実施には、コロナ禍でなくても人的資源と労力が不足しているという意見があった。

利用者アンケートを継続的に実施するには、長期的な展望をもっておくことが必要である。

以上、僅かでも参考になれば幸いです

本日の内容

6. 大阪府「がん相談支援センターご利用にあたってのアンケート」調査実施について
- 7. 地域相談支援フォーラムin山形（オンライン開催）の報告・質疑**
8. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について
9. その他
 - 1) オブザーバーからのコメント
 - 2) 連絡事項
10. 閉会のあいさつ

令和3年度
地域相談支援フォーラムin山形
開催報告
『在宅につなぐ相談員の役割』

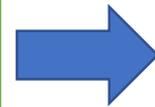


令和3年11月26日
山形県立中央病院
稲村みどり

テーマ選定理由

県内の拠点病院の相談員にアンケート調査
(令和1年10月)

- ・ ACPへの相談員のかかわり方
- ・ 医師と相談者をつなぐコミュニケーションスキル
- ・ 高齢者への支援
正しい医療情報の取捨選択と相談員ができるアドバイス
- ・ その人らしい治療選択
- ・ がん相談の質向上を目指した取組み
- ・ 支持療法としてのアピアランスケア



県内実行委員で話し合い

- ・ 東北地方の特徴として高齢者が多く、正しい情報の取捨選択が困難
- ・ 高齢者に限らずACPの進め方は難しい
- ・ 患者家族との信頼関係を築くことが大切
- ・ 在宅療養が増えている現状で、在宅療養を支援する際の相談員の役割とは



『在宅につなぐ相談員の役割』

新型コロナウイルス
感染症感染拡大

- 令和2年度開催中止の判断（令和2年5月） ⇒ (共催) 東北がんネットワークがん患者相談室専門委員会の了承を得る
- 約半年後、県内実行委員話し合い再開
(主にメール+オンライン会議システム)

入院での面会
等制限あり在
宅療養の選択
が増加

在宅につなぐ
ために大切な
ことは何か

制限された中
での、相談対
応や工夫を知
りたい

在宅療養支援
について話し
合いたい

メインテーマ：変更なし 『在宅につなぐ相談員の役割』

プログラムの組み立ての工夫

○従来のような時間帯では負担が大きいため⇒**午後のみ開催**とする

○各県の**情報交換・共有**は継続したい

- 発表者は指定せず（相談員・行政担当者）
- 個別性が出るような発表テーマが望ましい⇔いろいろな取り組みについて知りたい（同じような内容になるかもしれない）

発表のテーマ「**コロナ禍における相談対応の工夫・がん対策等**」

○講演の講師は、**実際に地方で訪問診療を行っている医師**がよい

- 地域的な特徴を把握・患者家族に寄り添った意思決定支援・コミュニケーションスキル・在宅での多職種連携やがん相談員への要望

オンライン開催において苦勞した点や工夫

集合研修開催は困難⇒**オンライン研修へ**⇒しかし、不安も・・・

- オンラインでの大規模の研修会開催は未経験
- GWのイメージがつかない・スキル不足・時間的余裕もなし（半日のみ）

◎**国立がん研究センターへの協力依頼と 情報共有会へ参加**

地域相談支援フォーラム
オンライン開催にあたり
情報・知恵を共有する会
2021/8/4（水）
15：30～16：30

- **参加状況確認方法** ⇒個人での受講を原則とし、集合参加の場合は責任者を設定
Zoom入室時は所属施設名と氏名を表示・常時ビデオオンにしてもらう
- **各県発表者のスライド共有や音声の確認**
⇒事前の接続テスト
- **質疑応答がスムーズにできるか**
⇒事前に各県実行員から質問内容・
応答者を決めておいてもらう

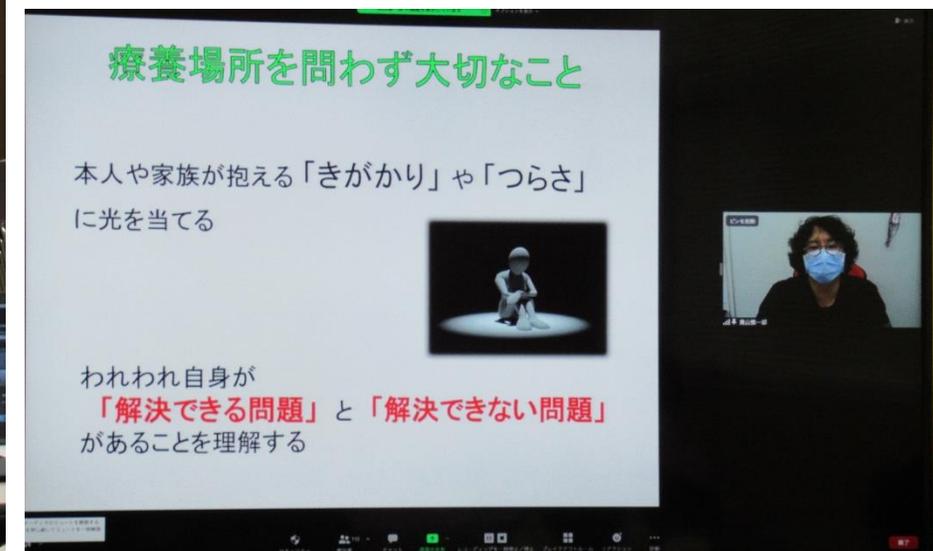
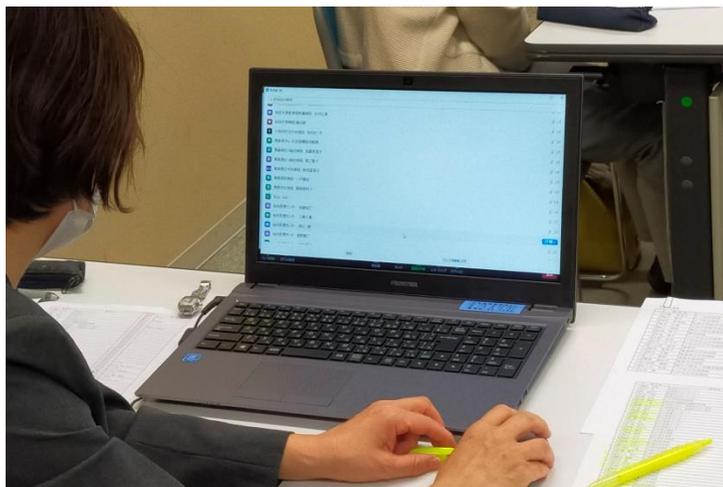
オンライン研修
企画者（ホスト）の手引き

国立がん研究センターがん対策情報セン
ターがん相談支援センター相談員研修担当

地域相談支援フォーラムへの
国立がん研究センターの協力依頼について

当日の様子

事務局：会議室利用
モニター画面
パソコン4台（操作担当用・
部会長用・参加者確認用2台）



アンケート結果（自由記載より抜粋）

○参加者 119名

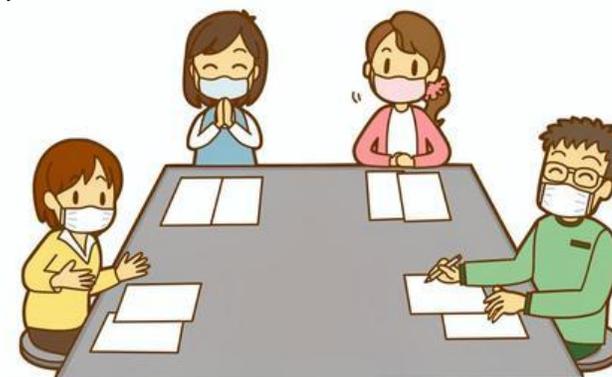
（青森県17名、岩手県17名、秋田県8名、宮城県34名、福島県14名、山形県29名）

○回答者 93名

○よく理解できた点、印象に残った点（自由記載より）

各県の発表について

- ・ 自施設でオンラインのがんサロンを検討していたので参考になった
- ・ 病院外の相談室やコミュニティーセンターでのサロン開催
- ・ Zoomなどの媒体を活用しながら試行錯誤して相談や研修に取り組む相談員の姿勢に感動した
- ・ この状況を逆に利用し新たな手段・ツールの活用で相談支援を進化させることができている
- ・ オンライン相談の課題を理解し対応



講演「在宅緩和ケアの実際と、がん専門相談員の役割」について

講師：訪問診療クリニックやまがた 院長 奥山慎一郎先生

- クリニックでの相談員の役割が大きい（MSW 3名在籍）
- 連携においては、患者家族が理解できていること・できていないことを伝え思いを共有する
- 支援者の正しさを押し付けない、相手の選択肢をつぶさない
- 「それって〇〇の仕事？」特定の職種がすべきと考えず、患者がなぜそう思うのかはだれでも聞ける
- 相手ではなく自分の信念を柔軟にコントロールしていく
- 地域の多職種連携のツールとしてICTやSNSを活用
- 医療機器を積極的に取り入れ、在宅でも様々な医療行為が可能
- 退院後の疼痛コントロールのために、オピオイド処方マニュアルを作成し活用

○オンライン開催についての感想

メリット

- ・ 移動時間・時間の制約・経済的負担がなく参加しやすい
- ・ 参加旅費の確保が困難なため参加しやすい
- ・ 画面上で参加者の顔が見えてよい

デメリット

- ・ 直接的なコミュニケーションが取れず物足りない。参加者の熱量や反応が分かりにくい
- ・ 質問があっても発言のタイミングがつかめず難しい
- ・ 初めての参加の場合設定に時間を要する
- ・ 発言者の顔を見つけるのに時間を要した
- ・ スライド共有や音声の切り替えでトラブルがあるとロスタイムが気になる

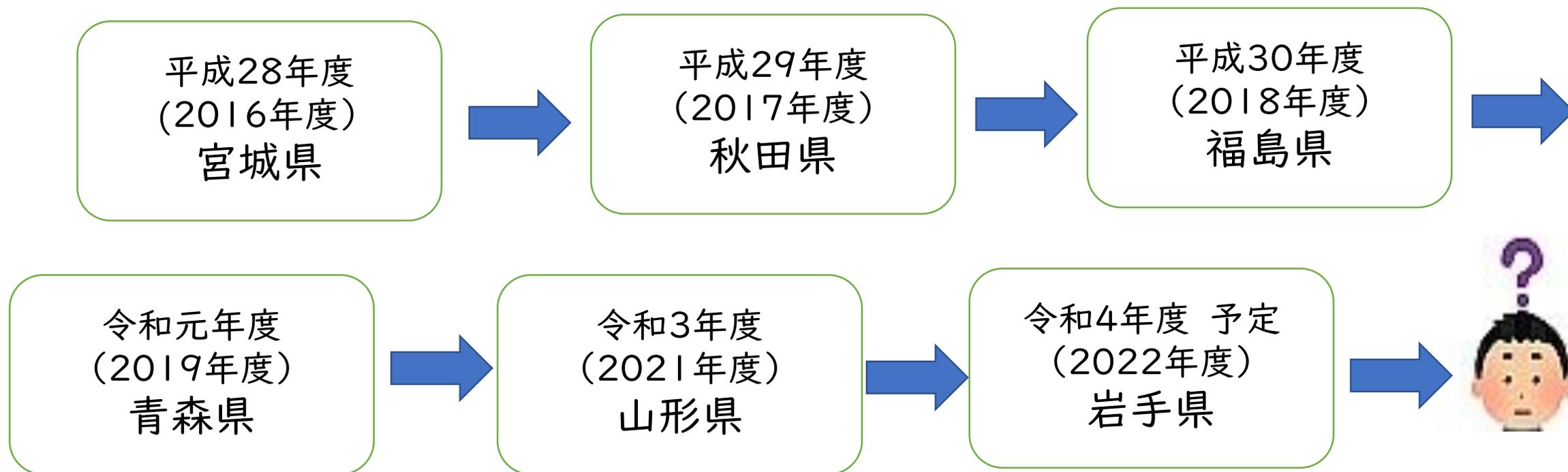
内容や運営に関するもの

- ・ 開催できたことがまずは良かった
- ・ 顔の見える関係づくりや連携等を考えると対面での研修会が良い
- ・ 多くの参加者がありながら発言者が限られるのは残念。他県の相談員ともっと意見交換したかった
- ・ 6県ともほぼ同じ内容となったので、切り口を変える工夫も必要
- ・ 画面の前に座っていなければならない緊張感があった。受講中に不適切な行動があった場合は表示しない調整が必要ではないか
- ・ 参加者も当日前に操作等の確認が必要（表示名の変え方やチャット機能等について）
- ・ 途中画面録画のアナウンスが演者の声と被ることがあり気になった

まとめ

- オンライン研修では、操作について開催者側・参加者側ともに慣れる必要がある
- 限られた時間内での、意見交換時間の確保や方法の検討
- 今後は状況に応じハイブリッド形式開催が望まれる
それぞれの特徴を生かし、参加者の状況により選択可
- コロナ禍という制限された環境でも、より良い相談支援にむけた取り組みをしている

東北ブロックにおける今後の取り組み



次年度で一巡 今後の開催について検討
行政との連携は継続したい



本日の内容

6. 大阪府「がん相談支援センターご利用にあたってのアンケート」調査実施について
7. 地域相談支援フォーラムin山形（オンライン開催）の報告・質疑
- 8. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について**
9. その他
 - 1) オブザーバーからのコメント
 - 2) 連絡事項
10. 閉会のあいさつ

相談員研修、国立がん研究センター 認定事業について

本日本話しさせていたたく内容

がん相談支援センター相談員に向けたプログラム (研修事業・認定事業)

- 2022年度 NCC主催相談員研修スケジュール
- 基礎研修(3)の開催について
- 「情報から始まるがん相談支援」研修の講師派遣事業
- 認定がん専門相談員の申請受付
- 各都道府県主催のⅢ群研修について

がん相談支援センター相談員に向けたプログラム

	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	開催主体	
			NCC	各都道府県
基礎研修	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	○	—
	基礎研修(3)	○	○	—
指導者等 継続研修	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	○	—
	指導者研修	○ 都道府県拠点	○	—
	指導者等スキルアップ研修	—	○	—
	指導者フォローアップ研修	—	2022年度開催予定なし	—
	アップデート研修	—	2022年度開催予定なし	—
各都道府県 での Ⅲ群研修	各都道府県での研修 (地域相談支援フォーラム含む)	○ 都道府県拠点が各都道府県の 相談支援に携わる者に対する継続的 かつ系統的な研修を行うこと	—	○
	← 講師派遣事業 (～2021：QA研修 / 2022～：情報支援研修)	—	○	—
	← 研修企画コンサルテーション	—	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	—	○	—
	認定がん相談支援センター	—	○	—

がん相談支援センター相談員に向けたプログラム

	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	開催主体	
			NCC	各都道府県
基礎研修	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	○	—
	基礎研修(3)	○	○	—
指導者等 継続研修	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	○	—
	指導者研修	○ 都道府県拠点	○	—
	指導者等スキルアップ研修	—	○	—
	指導者フォローアップ研修	—	2022年度開催予定なし	—
	アップデート研修	—	2022年度開催予定なし	—
各都道府県 での Ⅲ群研修	各都道府県での研修 (地域相談支援フォーラム含む)	○ 都道府県拠点が各都道府県の 相談支援に携わる者に対する継続的 かつ系統的な研修を行うこと	—	○
	←講師派遣事業 (～2021：QA研修 / 2022～：情報支援研修)	—	○	—
	←研修企画コンサルテーション	—	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	—	○	—
	認定がん相談支援センター	—	○	—

2022年度 NCC主催相談員研修スケジュール①

E-learning	科目数 (予定)	費用(税込)	申込期間	受講期間
基礎研修(1)(2)				
研修修了コース	21科目	無料	2022年2月～8月末日	2022年2月～11月末日
知識確認コース	21科目	18,150 (テキスト代込)	2022年2月～8月末日	2022年2月～11月末日
継続研修				
認定取得コース	29科目	16,500	2022年6月～9月頃	2022年6月～11月末日
認定更新コース	29科目 (必修8/選択21科目)	無料	2022年6月～9月頃	2022年6月～11月末日

2022年度 NCC主催相談員研修スケジュール②

集合研修	定員	日程	費用(税抜)	申込期間	受講日	開催形式
基礎研修(3)						
国指定コース	378	2日間	無料	4月上旬～中旬	①7/14(木)・15(金) ②7/19(火)・20(水) ③7/21(木)・22(金) ④8/27(土)・28(日) ⑤8/29(月)・30(火)	オンライン
非拠点コース		2日間	33,000			
指導者研修						
指導者	80	4日間	33,000	4月上旬～中旬	前期：6/14(火)・15(水) 後期：9/29(木)・30(金)	オンライン
指導者スキルアップ研修						
相談対応の質保証を学ぶ	50	1日間	5,500	未定	未定	オンライン
情報から始まるがん相談支援	50	2日間	22,000	未定	未定 ※指導者後期と別枠で開催の検討	オンライン
情報支援・相談対応モニタリング	12	2日間	22,000	未定	未定	オンライン

オンライン開催時の環境整備のお願い

研修中のシステムトラブルが
相次いでいます。
より良い研修環境の準備に、
皆様のご協力をお願いします。

■ 事前にご準備いただきたいこと

- 安定した通信環境（有線LANやWi-Fi）の確保
- 集中して受講できるよう会議室や個室の確保

※同じ施設から**複数名参加**される場合は、**必ず別室から参加**してください

→グループワーク中に、隣のグループの声が入り、グループワークの妨げになっています

- トラブル時の対処法の確認、必要時に協力が得られるよう事前手配

■ 必要物品

- ZoomやMicrosoft officeをインストールしたPC（参加者毎に1台）

※スマートフォンやタブレットは**不可**； WordやPower Pointを使用します

- **ヘッドセットマイク（必須）**

※PCの内臓マイクでは、機械音やノイズの発生・声を拾わない等のトラブルが多く、困っています

- Webカメラ（PC内蔵でも可）

各都道府県のがん診療連携拠点病院等にも周知をお願いします

がん相談支援センター相談員に向けたプログラム

	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	開催主体	
			NCC	各都道府県
基礎研修	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	○	—
	基礎研修(3)	○	○	—
指導者等 継続研修	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	○	—
	指導者研修	○ 都道府県拠点	○	—
	指導者等スキルアップ研修	—	○	—
	指導者フォローアップ研修	—	2022年度開催予定なし	—
	アップデート研修	—	2022年度開催予定なし	—
各都道府県 での Ⅲ群研修	各都道府県での研修 (地域相談支援フォーラム含む)	○ 都道府県拠点が各都道府県の 相談支援に携わる者に対する継続的 かつ系統的な研修を行うこと	—	○
	← 講師派遣事業 (~2021: QA研修 / 2022~: 情報支援研修)	—	○	—
	← 研修企画コンサルテーション	—	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	—	○	—
	認定がん相談支援センター	—	○	—

基礎研修(3)の開催について

- ① 6月オンライン開催（5日程）： 修了者181名
- ②（追加分）10月オンライン開催（2日程）： 修了者72名

2021年度の開催・選考状況

- 定員180名を大きく上回る573名より応募があったため、10月も追加開催することとした
- 6月開催分は整備指針にかかる受講生を中心に、10月追加開催分は2020年一度受講決定したもののお断りした方で今年も申し込みがあった方を中心に選考した

2022年度に向けて

- 現在コロナウィルスの状況は落ち着いているが、基礎(3)は整備指針にかかる研修であり、来年度も開催枠を確保するために**オンライン開催**を進める
- 2021年度は各日程36名（1グループ6名×6グループ）と対象を絞ったが、今年状況を受けて各日程42名（1グループ7名×6グループ）・一部の日程で2会場同時開催（同時開催数は5日程中4日程を予定）とし、**定員378名**とする

基礎研修(3) ファシリテーターご協力のお願い

都道府県拠点病院の指導者研修修了者の方を中心として、
ファシリテーターのご協力をお願いしております

- 当日の詳しいスケジュールやグループワーク（GW）のポイント等を記載したファシリテーターマニュアルを事前送付させていただきますので、GWの途中に参考にさせていただきます
- 他の都道府県の相談員と繋がったり、地域の相談員研修の企画・運営に生かしていただけます
- 基礎(3)のファシリテーターが初めての方・数年ブランクが空いた方、オンライン研修のファシリテーターが初めての方に向けて、基礎(3)のポイントを凝集した事前打ち合わせ会をおこないます（その他の方も参加可）

2022年度日程（予定；変更の可能性有）

- ファシリテーター向け事前打ち合わせ： 6月下旬～7月上旬頃の午後（3～4時間程度）
 - 第1回： 7月14日(木)・15日(金)
 - 第2回： 7月19日(火)・20日(水)（2会場の予定）
 - 第3回： 7月21日(木)・22日(金)（2会場の予定）
 - 第4回： 8月27日(土)・28日(日)（2会場の予定）
 - 第5回： 8月29日(月)・30日(火)（2会場の予定）
- ファシリテーター計63名の予定

業務多忙の折かと思いますが、がん専門相談員の後進育成のため、
お声かけさせていただいた場合は、是非ともご協力お願いいたします

がん相談支援センター相談員に向けたプログラム

	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	開催主体	
			NCC	各都道府県
基礎研修	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	○	—
	基礎研修(3)	○	○	—
指導者等 継続研修	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	○	—
	指導者研修	○ 都道府県拠点	○	—
	指導者等スキルアップ研修	—	○	—
	指導者フォローアップ研修	—	2022年度開催予定なし	—
	アップデート研修	—	2022年度開催予定なし	—
各都道府県 での Ⅲ群研修	各都道府県での研修 (地域相談支援フォーラム含む)	○ 都道府県拠点が各都道府県の 相談支援に携わる者に対する継続的 かつ系統的な研修を行うこと	—	○
	← 講師派遣事業 (~2021: QA研修 / 2022~: 情報支援研修)	—	○	—
	← 研修企画コンサルテーション	—	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	—	○	—
	認定がん相談支援センター	—	○	—

「情報から始まるがん相談支援」研修 講師派遣（予定）

- 「情報の見極め」や「基本的な医療情報（がん情報サービス等）の活用」をテーマとする研修を企画する都道府県に講師を派遣。
（講師派遣期間：2022～2024年度の3年間を予定）
- プログラム概要：国立がん研究センター主催情報支援研修（2日間）の1日目部分のみをパッケージ化した研修
※ご注意※
認定がん専門相談員の更新申請（II群単位取得）をされる方は、国立がん研究センター主催情報支援研修（2日間）の受講が必要です。
- 今年度中に講師派遣の募集要項をがん情報サービスに掲載します。
掲載が完了次第、拠点病院相談員のメーリングリスト（kyoten-CISC@ML）でご案内いたします。

がん相談支援センター相談員に向けたプログラム

	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	開催主体	
			NCC	各都道府県
基礎研修	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	○	—
	基礎研修(3)	○	○	—
指導者等 継続研修	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	○	—
	指導者研修	○ 都道府県拠点	○	—
	指導者等スキルアップ研修	—	○	—
	指導者フォローアップ研修	—	2022年度開催予定なし	—
	アップデート研修	—	2022年度開催予定なし	—
各都道府県 での Ⅲ群研修	各都道府県での研修 (地域相談支援フォーラム含む)	○ 都道府県拠点が各都道府県の 相談支援に携わる者に対する継続的 かつ系統的な研修を行うこと	—	○
	← 講師派遣事業 (~2021: QA研修 / 2022~: 情報支援研修)	—	○	—
	← 研修企画コンサルテーション	—	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	—	○	—
	認定がん相談支援センター	—	○	—

申請受付期間

認定がん専門相談員



2021年11月18日（木）～12月10日（金）

近日受付締切

認定がん相談支援センター



認定がん相談支援センター

2022年4月1日（金）～5月31日（火）（予定）

詳細は募集要項をご参照ください。

国立がん研究センター>がん対策研究所>プロジェクト>がん情報提供部

国立がん研究センター「認定がん専門相談員」および「認定がん相談支援センター」認定事業

<https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/index.html>

がん相談支援センター相談員に向けたプログラム

	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	開催主体	
			NCC	各都道府県
基礎研修	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	○	—
	基礎研修(3)	○	○	—
指導者等 継続研修	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	○	—
	指導者研修	○ 都道府県拠点	○	—
	指導者等スキルアップ研修	—	○	—
	指導者フォローアップ研修	—	2022年度開催予定なし	—
	アップデート研修	—	2022年度開催予定なし	—
各都道府県 での Ⅲ群研修	各都道府県での研修 (地域相談支援フォーラム含む)	○ 都道府県拠点が各都道府県の 相談支援に携わる者に対する継続的 かつ系統的な研修を行うこと	—	○
	← 講師派遣事業 (~2021: QA研修 / 2022~: 情報支援研修)	—	○	—
	← 研修企画コンサルテーション	—	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	—	○	—
	認定がん相談支援センター	—	○	—

都道府県主催Ⅲ群研修のご連絡・お願い

- オンライン開催でも、引き続きⅢ群研修としてみなしています
 - Ⅲ群研修の取り扱いに関する詳細は、以下URLをご覧ください
https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/IIIgtrk03.pdf
- 他都道府県からの受講生の受け入れ（定員に満たない場合等）を積極的にご検討ください
- 各都道府県での研修の年間予定表を、がん情報サービスに掲載しています
 - https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/training_tdfk/list_2021.html
 - 今年度のアンケートに未回答の方、研修内容の追加・修正依頼がある方は下記URLよりご入力お願い致します
https://contact.ganjoho.jp/form/pub/ganjoho/ichiran_henkou
 - 2022年3～4月頃、各都道府県の研修連絡担当者宛にアンケートを実施予定です
- 研修開催後は、以下より速やかに開催報告をお願いします
 - 報告期限は、研修開催日が含まれる月の翌々月の末日です
例) 2021年11月開催→2022年1月末日までに報告
 - Ⅲ群報告は、以下URLよりお願い致します
https://contact.ganjoho.jp/form/pub/ganjoho/iii_houkoku

本日の内容

- 6. 大阪府「がん相談支援センターご利用にあたってのアンケート」調査実施について
- 7. 地域相談支援フォーラムin山形（オンライン開催）の報告・質疑
- 8. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について
- 9. その他**
 - 1) オブザーバーからのコメント
 - 2) 連絡事項
- 10. 閉会のあいさつ

連絡事項

■ 第18回情報提供・相談支援部会

日時：**2022年5月26日（木） 13:00~16:00**

※オンラインで開催します。

※一部資料について、webでの事前公開にさせていただく可能性があります。
ご協力のほど、お願い申し上げます。

情報提供・相談支援部会事務局

■ FAX : 03-3547-8577

■ mail: joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp

本日の内容

6. 大阪府「がん相談支援センターご利用にあたってのアンケート」調査実施について
7. 地域相談支援フォーラムin山形（オンライン開催）の報告・質疑
8. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について
9. その他
 - 1) オブザーバーからのコメント
 - 2) 連絡事項
- 10. 閉会のあいさつ**